

令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事

設 計 図 面

令和8年 7月

津 和 野 町 建 設 課

図面目次

(図面数: 26枚)

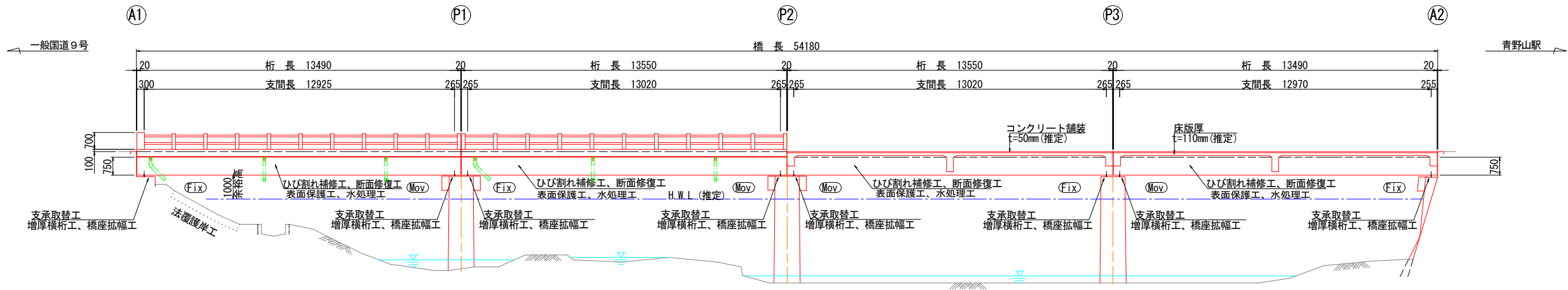
令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事

ファイル名	図面名(補足等)	備考
01 直地橋 補修計画一般図	直地橋 補修計画一般図	
02 直地橋 上部工補修図(その1)	直地橋 上部工補修図(その1)	床版下面・横桁(第1径間)
03 直地橋 上部工補修図(その2)	直地橋 上部工補修図(その2)	床版下面・横桁(第2径間)
04 直地橋 上部工補修図(その3)	直地橋 上部工補修図(その3)	床版下面・横桁(第3径間)
05 直地橋 上部工補修図(その4)	直地橋 上部工補修図(その4)	床版下面・横桁(第4径間)
06 直地橋 上部工補修数量表(その1)	直地橋 上部工補修数量表(その1)	第1径間
07 直地橋 上部工補修数量表(その2)	直地橋 上部工補修数量表(その2)	第2径間
08 直地橋 上部工補修数量表(その3)	直地橋 上部工補修数量表(その3)	第3径間
09 直地橋 上部工補修数量表(その4)	直地橋 上部工補修数量表(その4)	第4径間
10 直地橋 上部工補修数量表(その5)	直地橋 上部工補修数量表(その5)	第1～4径間
11 直地橋 縁端拡幅一般図	直地橋 縁端拡幅一般図	
12 直地橋 縁端拡幅詳細図(その1)	直地橋 縁端拡幅詳細図(その1)	構造図
13 直地橋 縁端拡幅詳細図(その2)	直地橋 縁端拡幅詳細図(その2)	A1橋台配筋図
14 直地橋 縁端拡幅詳細図(その3)	直地橋 縁端拡幅詳細図(その3)	P1～P3橋台配筋図
15 直地橋 縁端拡幅詳細図(その4)	直地橋 縁端拡幅詳細図(その4)	A2橋台配筋図
16 直地橋 縁端拡幅詳細図(その5)	直地橋 縁端拡幅詳細図(その5)	後打ちコンクリート配筋図
17 直地橋 縁端拡幅撤去詳細図	直地橋 縁端拡幅撤去詳細図	
18 直地橋 支承取替一般図	直地橋 支承取替一般図	
19 直地橋 支承詳細図(その1)(参考図)	直地橋 支承詳細図(その1)(参考図)	
20 直地橋 支承詳細図(その2)(参考図)	直地橋 支承詳細図(その2)(参考図)	
21 直地橋 横桁増厚図	直地橋 横桁増厚図	
22 直地橋 排水施設補修図	直地橋 排水施設補修図	
23 直地橋 補修要領図(その1)(参考図)	直地橋 補修要領図(その1)(参考図)	
24 直地橋 補修要領図(その2)(参考図)	直地橋 補修要領図(その2)(参考図)	
25 直地橋 仮設計画図(案)(その1)	直地橋 仮設計画図(案)(その1)	上部工 施工時
26 直地橋 仮設計画図(案)(その2)	直地橋 仮設計画図(案)(その2)	支承取替工等 施工時

直地橋 補修計画一般図

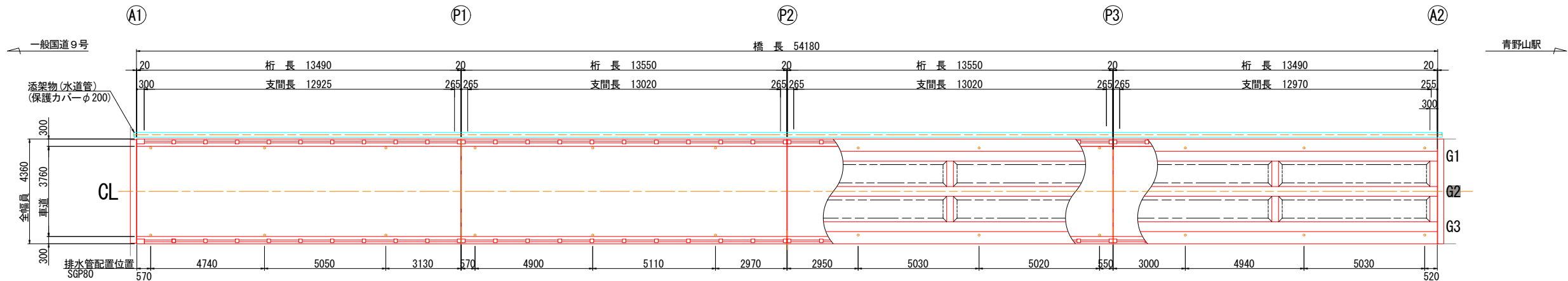
側面図

S=1:100



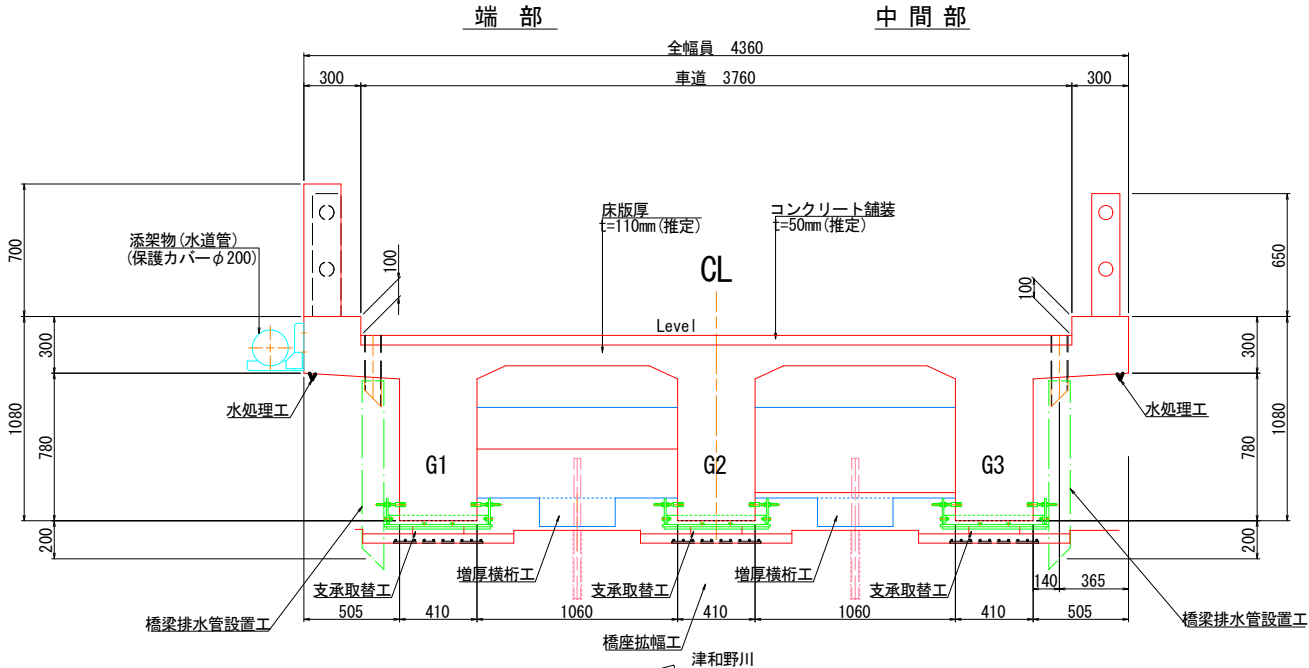
平面図

S=1:100



断面図

S=1:20



補修工一覧表

部位	工種	
主桁、横桁、床版	ひび割れ補修工	ひび割れ注入工法 エポキシ樹脂
	断面修復工	左官工法 (ポリマーセメントモルタル)
	表面保護工	表面含浸工法 けい酸塩系表面含浸材
	水処理工	水切り設備の設置
支承	支承取替工	支承取替 (鋼製支承→ゴム支承) 増厚横桁工、橋座拡幅工
排水施設	橋梁排水管設置工	塩ビ管による管延長

※工事への申し送り事項 (報告書 第5編 第9章 施工計画 3. 参照)
補修工事を行うに当たっては、以下のことに留意すること。

- ・直地橋は迂回路が存在しないため、交通規制の実施には注意が必要である。
- ・施工場所は河川区域内のため河川内作業を行う場合は、河川管理者 (益田県土整備事務所) との協議 (申請) が必要である。
- ・交通規制を伴う場合は、津和野警察署、道路管理者、消防との事前協議が必要である。
- ・下流側添架物 (水道管) の管理者への事前報告は必要である。
- ・橋近隣の地元住民及び関係機関に対する事前の説明が必要である。
- ・補修工事は非出水期間で実施すること。
- ・直地橋付近は住宅地であり、資材搬入時や施工時は注意する必要がある。
- ・図面、数量に示す損傷・構造寸法は、必ず現場で確認し施工計画等に反映させること。
- ・支承の固定可動については、形式が古く不明な点が多いため、既設支承撤去時に固定可動を確認し、適切な位置に配置すること。なお、先行して施工を行う縁端拡幅部のアンカーバー設置用の箱抜きは同径φ46を用いて、設置位置が適宜変更できるように配慮すること。
- ・床板の断面修復を行う際は、床板厚 (想定110mm) を考慮したうえでハツリ深さを調整し、必要最小限の復旧を行うこと。

※維持管理への申し送り事項 (報告書 第5編 第9章 施工計画 4. 参照)
補修工事成後の維持管理を行うに当たっては、以下のことに留意すること。

・断面修復箇所は外観の状態 (ひび割れ、はく離、はく落、漏水、析出物、等) を目視で観察する必要があり、必要に応じて打音調査を行うこと。

・水切り材の接着状況を目視で観察し、必要に応じて触診による確認を行うこと。

- ・いずれの損傷も、漏水 (滞水) が主原因となっていることから、漏水対策施設の効果を日常点検および定期点検で確認を行うこと。
- ・直地橋は、1962年 (昭和37年) に架橋された供用年数63年の非常に古い橋梁であるが、右岸側にある比較的大きな集落から国道9号への主要なアクセス道路になっており、地元住民にとって重要度が高い。緊急時の避難経路として、中国自然歩道を車両が安全に通行できるように未舗装部を整備することが望ましい。

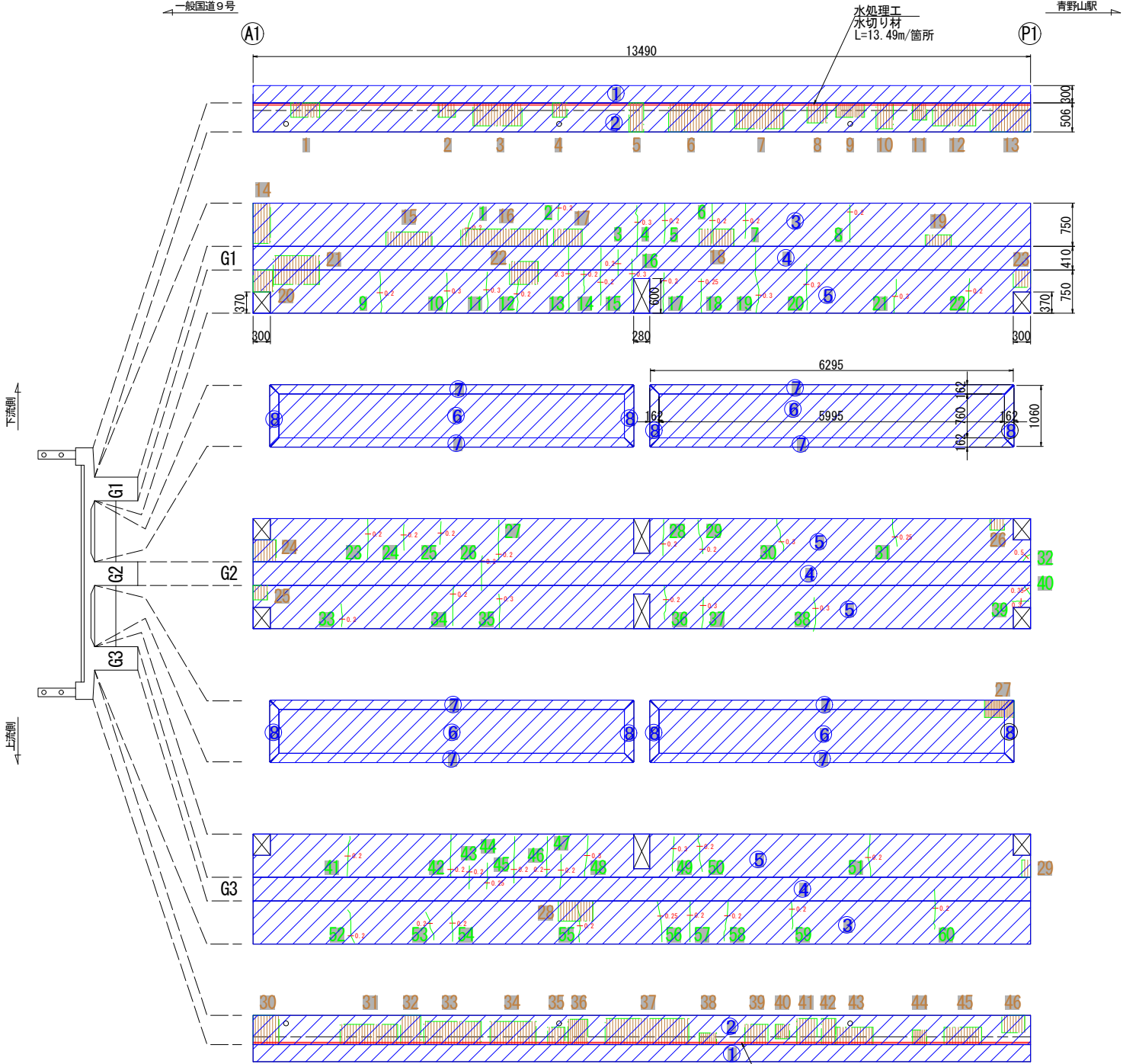
※本図面は橋梁台帳等および現地簡易計測から復元したものである。

年 度	令和8年度			
番 号	災		号	
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事			
道川港名	町道直地線			
施工箇所	鹿足	市	津和野	町 直地 地内
図面名称	直地橋 補修計画一般図			
				縮尺 図示
会社名	会社名及び責任者			
項目				
測 量				
調 査				
設 計				
	26 葉の内 1			

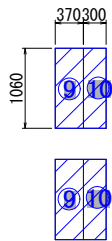
直地橋 上部工補修図（その1） S=1:50

床版下面・横桁（第1径間）

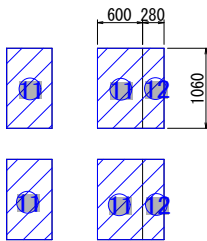
展開図 S=1:50
(床版下面)



展開図 S=1:50
(横桁A1側)



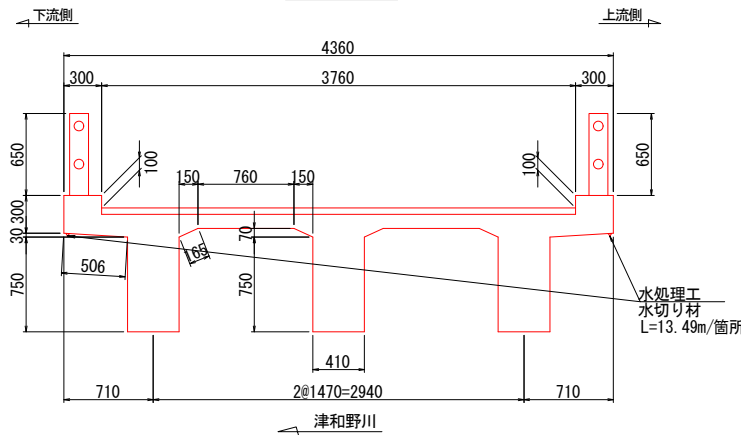
展開図 S=1:50
(横桁中央)



展開図 S=1:50
(横桁P1側)



断面図 S=1:30

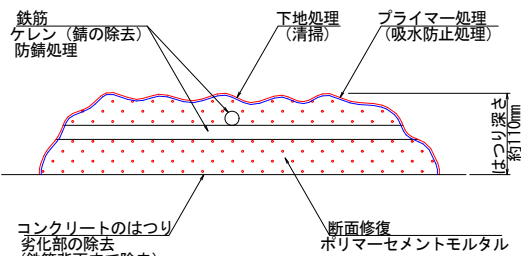


凡例

表示	工種	使用材料
長さ(m)	ひびわれ注入工 (幅0.2mm~1.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
長さ(m)	ひびわれ注入工 (幅1.0mm~5.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
長さ(m)	ひびわれ注入工 (遊離石灰を併用ひび割れ)	
	断面修復工(左官工法)	ポリマーセメントモルタル
	表面含浸工法	けい酸塩系表面含浸材
	水処理工	水切り材(水切り設備)

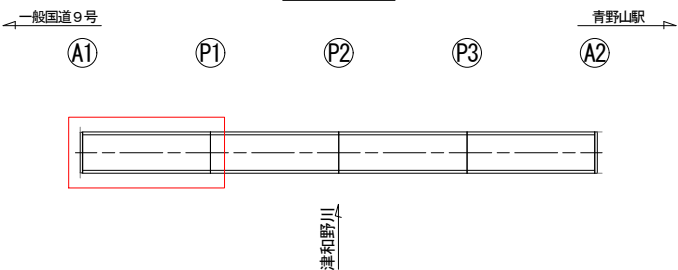
※ 形状・寸法、変状範囲については、施工時に再度確認を行うこと。
※ 遊離石灰、土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。

断面修復工標準施工図



※ 施工時には現地の鉄筋状況やコンクリートの劣化状況に応じて、はつり深さを調整、変更すること。

位置図

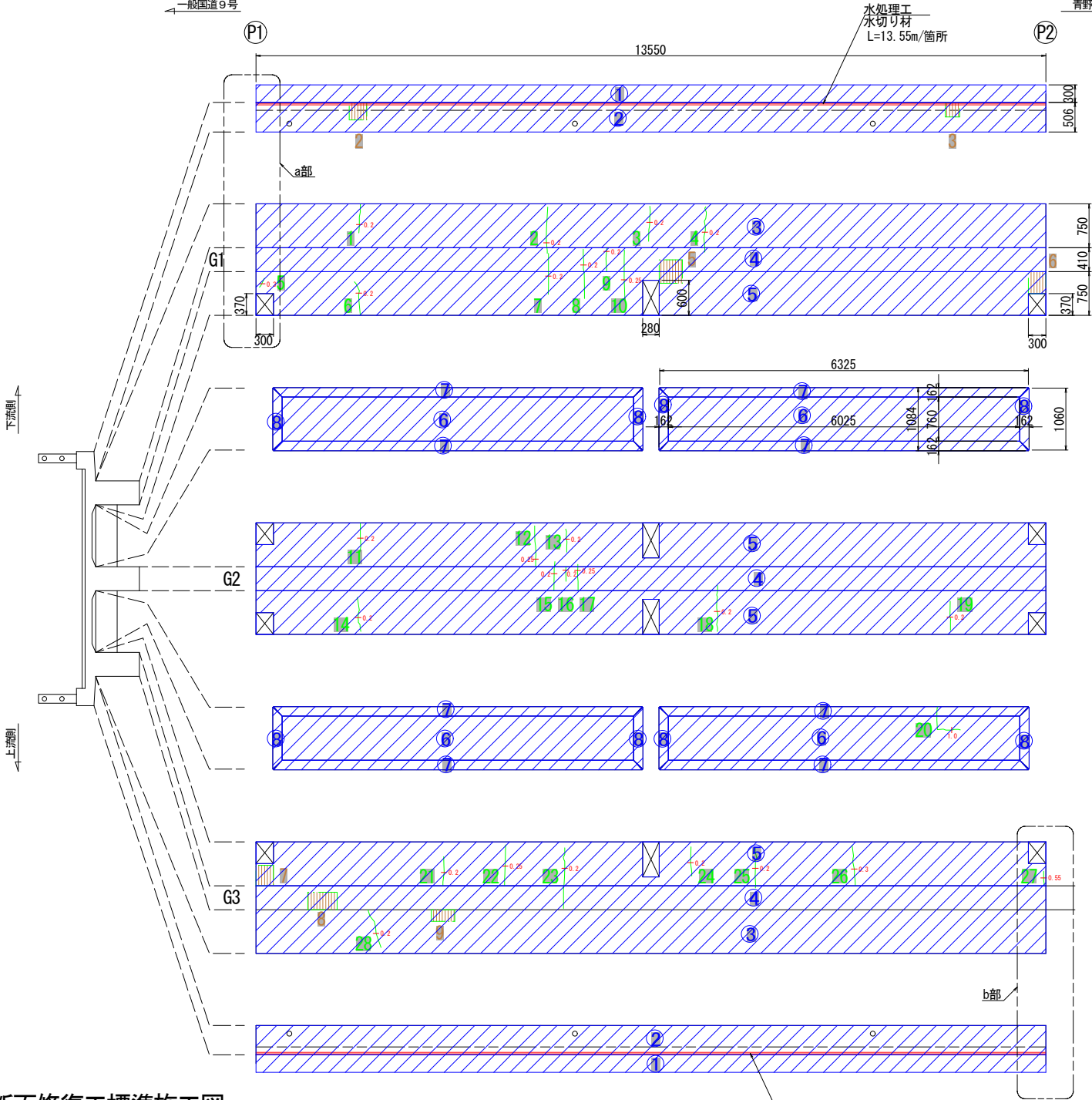


年度	令和8年度
番号	災 号
工事名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 上部工補修図(その1) 図示
会社名	会社名及び責任者
項目	
測量	
調査	
設計	
26	葉の内 2

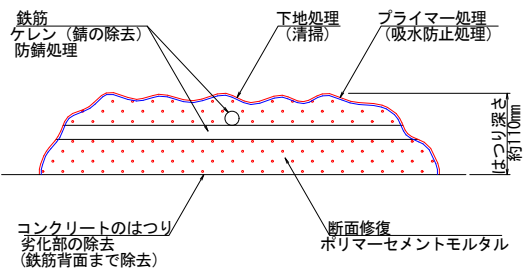
直地橋 上部工補修図（その2） S=1:50

床版下面・横桁（第2径間）

展開図 S=1:50
(床版下面)

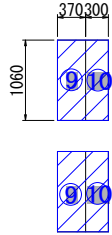


断面修復工標準施工図

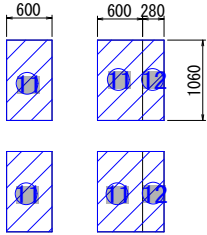


※ 施工時には現地の鉄筋状況やコンクリートの劣化状況に応じて、はつり深さを調整、変更すること。

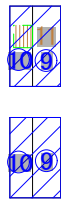
展開図 S=1:50
(横桁P1側)



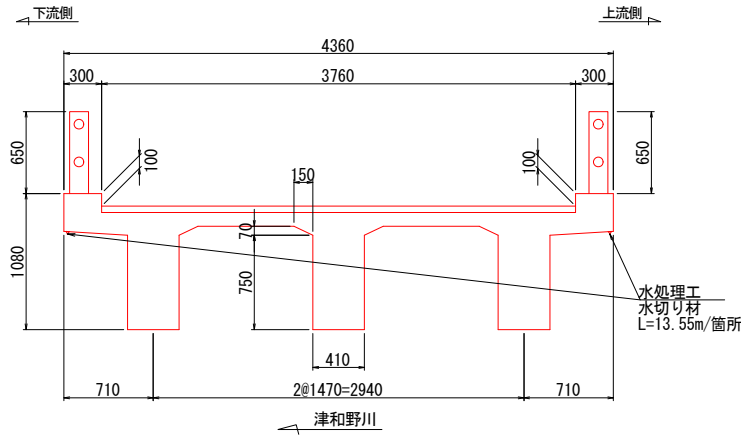
展開図 S=1:50
(横桁中央)



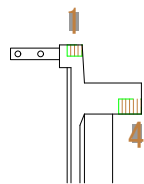
展開図 S=1:50
(横桁P2側)



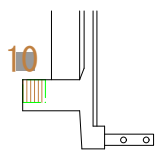
断面図 S=1:30



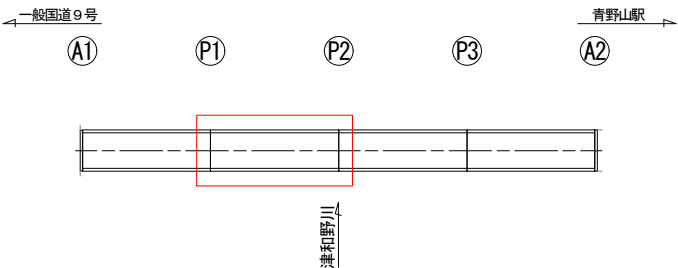
a部詳細図 S=1:50



b部詳細図 S=1:50



位置図



凡例

表示	工 種	使用材料
長さ (m)	ひびわれ注入工 (幅0.2mm~1.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
長さ (m)	ひびわれ注入工 (幅1.0mm~5.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
長さ (m)	ひびわれ注入工 (遊離石灰を伴うひび割れ)	
	断面修復工 (左官工法)	ポリマーセメントモルタル
	表面含浸工法	けい酸塩系表面含浸材
	水処理工	水切り材 (水切り設備)

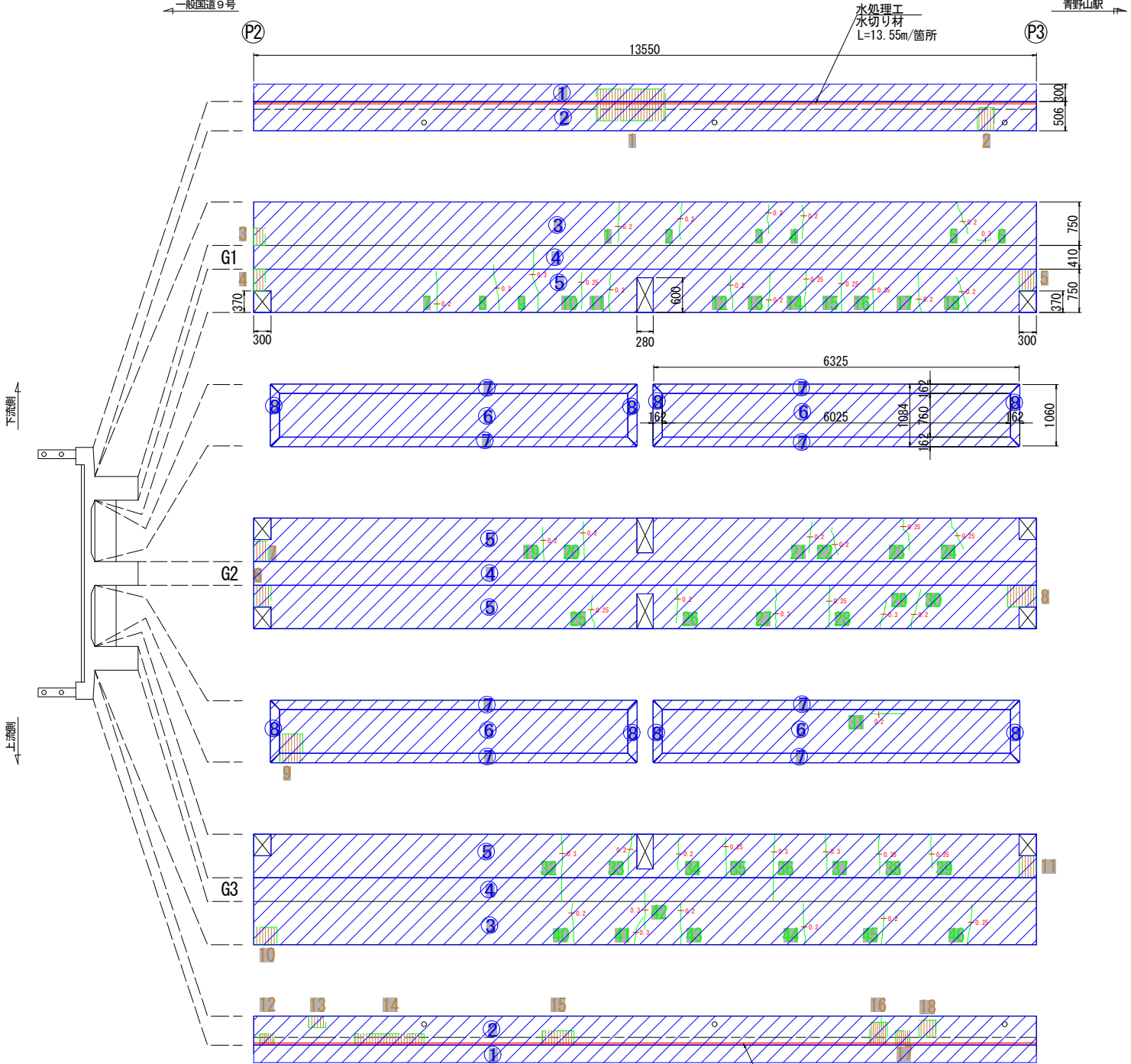
※ 形状・寸法、変状範囲については、施工時に再度確認を行うこと。
※ 遊離石灰、土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 上部工補修図 (その2) 縮尺 図示
会社名	会社名及び責任者
項目	
測 量	
調 査	
設 計	
	26 葉の内 3

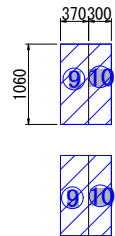
直地橋 上部工補修図（その3） S=1:50

床版下面・横桁（第3径間）

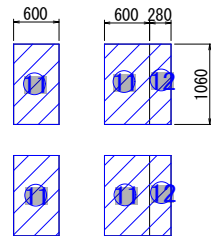
展開図 S=1:50
(床版下面)



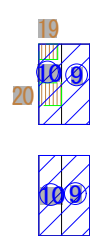
展開図 S=1:50
(横桁P2側)



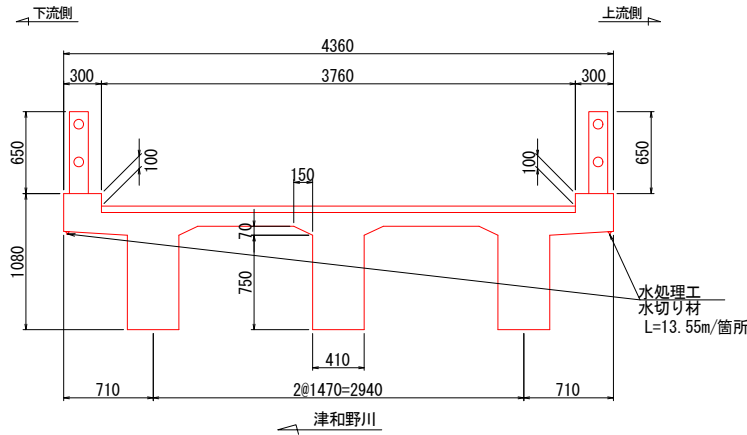
展開図 S=1:50
(横桁中央)



展開図 S=1:50
(横桁P3側)



断面図 S=1:30

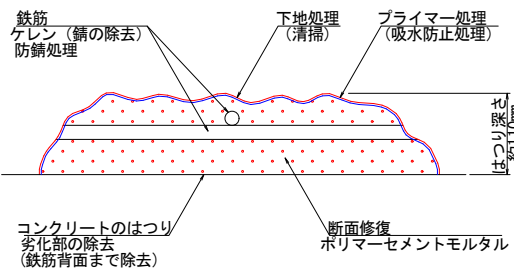


凡 例

表示	工 種	使用材料
	長さ (m) ひびわれ注入工 (幅0.2mm~1.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
	長さ (m) ひびわれ注入工 (幅1.0mm~5.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
	長さ (m) ひびわれ注入工 (遊離石灰を伴うひび割れ)	
	断面修復工 (左官工法)	ポリマーセメントモルタル
	表面含浸工法	けい酸塩系表面含浸材
	水処理工	水切り材 (水切り設備)

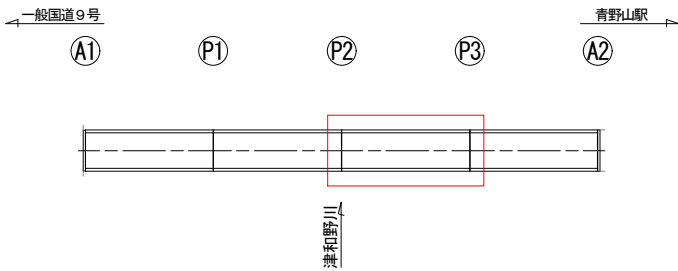
※ 形状・寸法、変状範囲については、施工時に再度確認を行うこと。
※ 遊離石灰、土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。

断面修復工標準施工図



※ 施工時には現地の鉄筋状況やコンクリートの劣化状況に応じて、はつり深さを調整、変更すること。

位置図



年 度	令和8年度
番 号	災 害 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 上部工補修図 (その3) 縮尺 図示
会社名	会社名及び責任者
項目	
測 量	
調 査	
設 計	
26 葉の内	4

直地橋 上部工補修図（その4）

S=1:50

床版下面・横桁（第4径間）

展開図
(床版下面)

S=1:50

展開図
(横桁P3側)

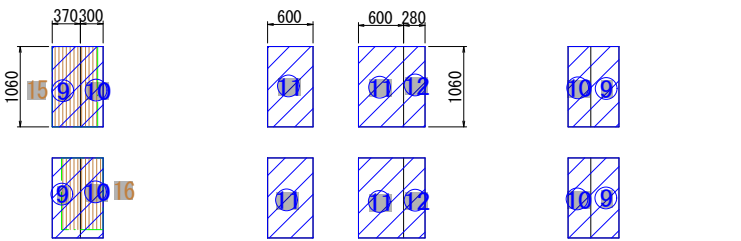
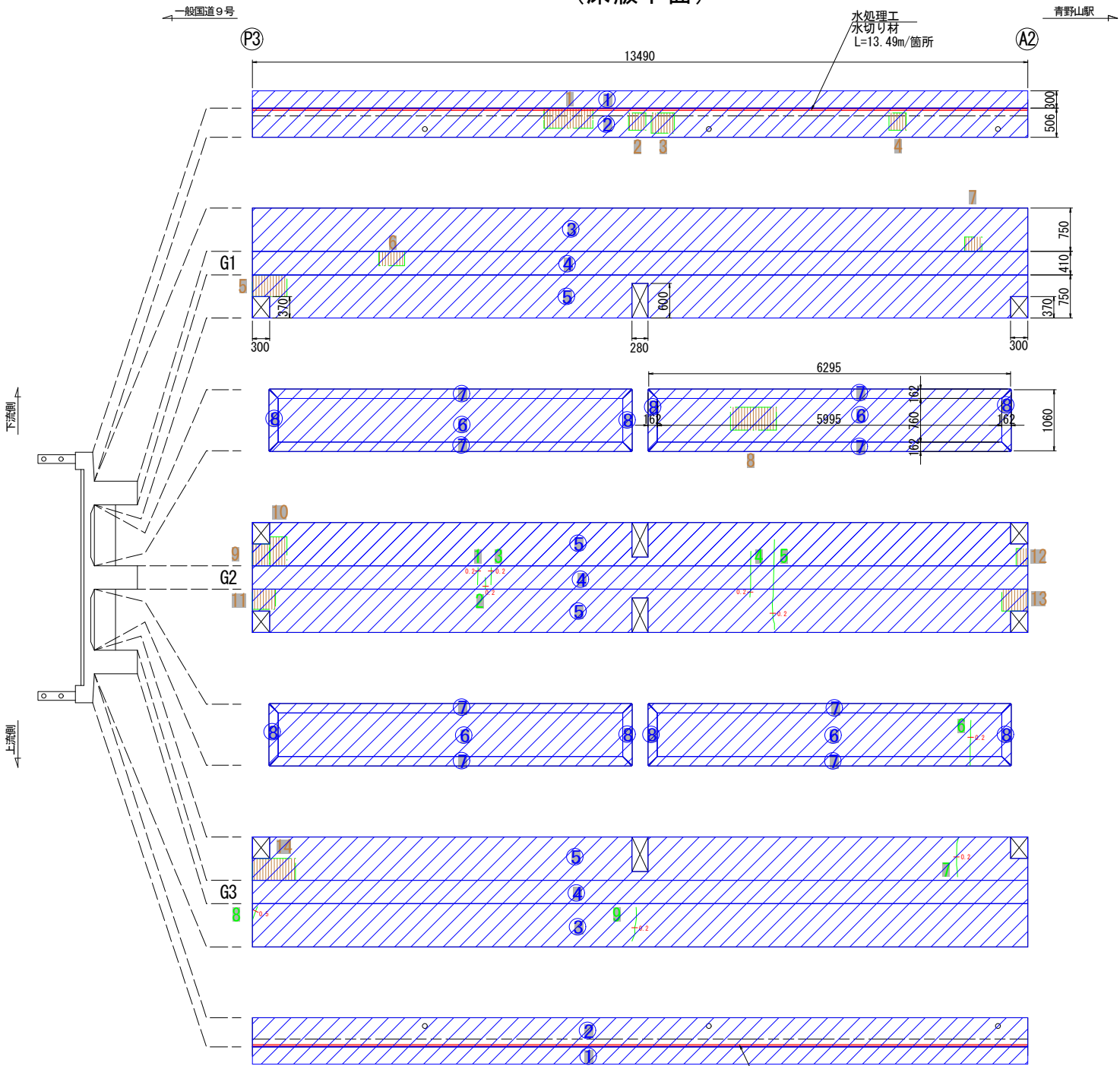
S=1:50

展開図
(横桁中央)

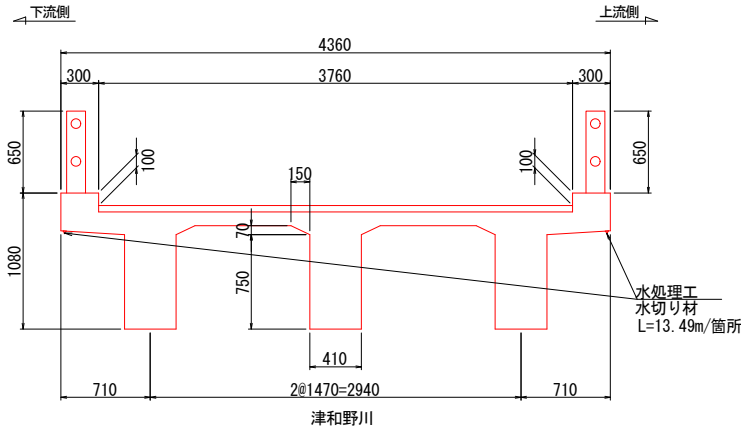
S=1:50

展開図
(横桁A2側)

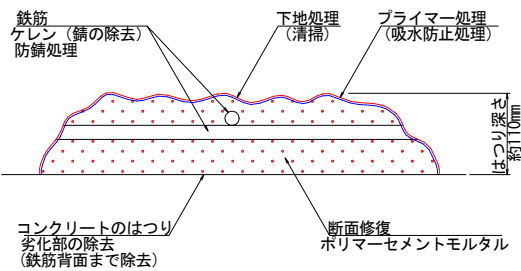
S=1:50



断面図 S=1:30



断面修復工標準施工図



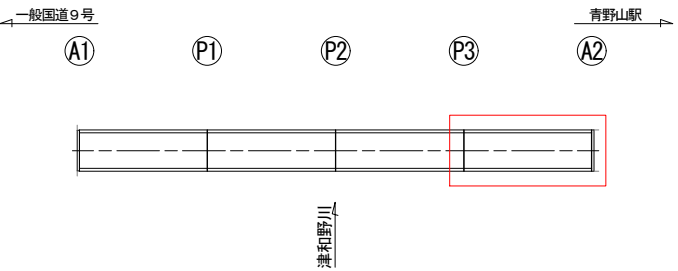
※ 施工時には現地の鉄筋状況やコンクリートの劣化状況に応じて、はつり深さを調整、変更すること。

凡例

表示	工種	使用材料
長さ (m)	ひびわれ注入工 (幅0.2mm~1.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
長さ (m)	ひびわれ注入工 (幅1.0mm~5.0mm未満)	エポキシ樹脂注入剤
長さ (m)	ひびわれ注入工 (遊離石灰を伴うひび割れ)	
	断面修復工 (左官工法)	ポリマーセメントモルタル
	表面含浸工法	けい酸塩系表面含浸材
	水処理工	水切り材 (水切り設備)

※ 形状・寸法、変状範囲については、施工時に再度確認を行うこと。
※ 遊離石灰、土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。

位置図



年度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 上部工補修図 (その4) 図示
会社名	会社名及び責任者
項目	
測 量	
調 査	
設 計	
26 葉の内	5

直地橋 上部工補修数量表 (その1)

第 1 徑間

上部工補修数量表

ひび割れ						
番号	ひび割れ長さ (m)					ひび割れ幅 (mm)
	0.2mm以上 0.5mm未満	0.5mm以上 1.0mm未満	1.0mm以上 5.0mm未満	5.0mm以上	遊離石灰を 伴うひび割れ	
1	0.50					W=0.20
2	0.30					W=0.20
3	0.45					W=0.20
4	0.90					W=0.30
5	0.70					W=0.20
6	0.70					W=0.20
7	0.60					W=0.20
8	0.65					W=0.20
9	0.70					W=0.20
10	0.70					W=0.30
11	0.70					W=0.30
12	0.60					W=0.20
13	1.10					W=0.30
14	0.40					W=0.20
15	1.00					W=0.20
16	0.60					W=0.30
17	0.70					W=0.20
18	0.60					W=0.25
19	1.15					W=0.30
20	0.80					W=0.20
21	0.60					W=0.30
22	0.60					W=0.20
23	0.70					W=0.20
24	0.45					W=0.20
25	0.40					W=0.20
26	0.60					W=0.20
27	0.70					W=0.20
28	0.60					W=0.20
29	0.60					W=0.20
30	0.60					W=0.30
31	0.50					W=0.25
32		0.20				W=0.50
33	0.40					W=0.20
34	0.70					W=0.20
35	0.60					W=0.30
36	0.60					W=0.20
37	0.55					W=0.30
38	0.65					W=0.30
39	0.20					W=0.30
40	0.20					W=0.35
41	0.70					W=0.20
42	0.70					W=0.20
43	0.40					W=0.20
44	0.45					W=0.25
45	0.80					W=0.20
46	0.70					W=0.20
47	0.60					W=0.20
48	0.70					W=0.30
49	0.60					W=0.30
50	0.65					W=0.20
51	0.75					W=0.20
52	0.60					W=0.20
53	0.50					W=0.20
54	0.50					W=0.20
55	0.65					W=0.20
56	0.70					W=0.25
57	0.70					W=0.20
58	0.70					W=0.20
59	0.50					W=0.20
60	0.70					W=0.20
合計	36.70	0.20				
工種	ひびわれ 注入工	ひびわれ 注入工				
使用 材料	エポキシ樹脂 注入剤	エポキシ樹脂 注入剤				

上部工補修数量表

番号	寸法 (m)	面積 (㎡)	番号	寸法 (m)	面積 (㎡)
1	0.25 × 0.50	0.125	25	0.38 × 0.40	0.152
2	0.25 × 0.30	0.075	26	0.25 × 0.25	0.063
3	0.40 × 0.85	0.340	27	0.20 × 0.25	0.050
4	0.25 × 0.25	0.063	28	0.30 × 0.50	0.150
5	0.51 × 0.25	0.128	29	0.35 × 0.60	0.210
6	0.51 × 0.75	0.383	30	0.30 × 0.15	0.045
7	0.45 × 0.85	0.383	31	0.51 × 0.45	0.230
8	0.35 × 0.35	0.123	32	0.35 × 1.00	0.350
9	0.25 × 0.50	0.125	33	0.51 × 0.35	0.179
10	0.45 × 0.30	0.135	34	0.40 × 1.00	0.400
11	0.30 × 0.25	0.075	35	0.40 × 0.80	0.320
12	0.40 × 0.75	0.300	36	0.30 × 0.30	0.090
13	0.51 × 0.70	0.357	37	0.45 × 0.35	0.158
14	0.70 × 0.30	0.210	38	0.45 × 1.45	0.653
15	0.25 × 0.80	0.200	39	0.20 × 0.30	0.060
16	0.30 × 1.50	0.450	40	0.35 × 0.40	0.140
17	0.30 × 0.50	0.150	41	0.25 × 0.25	0.063
18	0.30 × 0.60	0.180	42	0.45 × 0.35	0.158
19	0.20 × 0.45	0.090	43	0.45 × 0.25	0.113
20	0.38 × 0.35	0.133	44	0.30 × 0.65	0.195
21	0.50 × 0.80	0.400	45	0.25 × 0.25	0.063
22	0.40 × 0.50	0.200	46	0.30 × 0.65	0.195
23	0.30 × 0.30	0.090	47	0.30 × 0.40	0.120
				合 計	8.872

上部工補修数量表

番号	寸法 (m)	面数	面積 (㎡)
①	0.300 × 13.490	2	8.094
②	0.506 × 13.490	2	13.652
③	0.750 × 13.490	2	20.235
④	0.410 × 13.490	3	16.593
⑤	0.750 × 13.490 - 0.370 × 0.300 × - 0.280 × 0.600	2	38.910
⑥	0.760 × 5.995	4	18.225
⑦	0.162 × (5.995 + 6.295) × 1/2	8	7.964
⑧	0.162 × (0.760 + 1.060) × 1/2	8	1.179
⑨	0.370 × 1.060	4	1.569
⑩	0.300 × 1.060	4	1.272
⑪	0.600 × 1.060	4	2.544
⑫	0.280 × 1.060	2	0.594
合 計			130.831

上部工補修数量表

水処理工			
名称	規格	単位	数量
下地処理	清掃、水洗い	m ²	—
水切り材	コンクリート構造物用 後付け型	m	26.980

※ コンクリート表面の下地処理工は、ひび割れ注入工法の工程内で行う。

年 度	令和8年度		
番 号	災	号	
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事		
道川港名	町道直地線		
施工箇所	鹿足 ^市	津和野 ^町	直地 ^{地内}
図面名称	直地橋 上部工補修数量表(その1) 縮尺		
会社名	会社名及び責任者		
項目 測 量 調 査			
設 計			
	26 葉の内 6		

直地橋 上部工補修数量表（その2）

第2 径間

上部工補修数量表

ひび割れ						
番号	ひび割れ長さ（m）					ひび割れ幅（mm）
	0.2mm以上 0.5mm未満	0.5mm以上 1.0mm未満	1.0mm以上 5.0mm未満	5.0mm以上	遊離石灰を 伴うひび割れ	
Ⅱ	0.50					W=0.20
Ⅲ	0.80					W=0.20
Ⅳ	0.60					W=0.20
Ⅴ	0.80					W=0.20
Ⅵ	0.20					W=0.30
Ⅶ	0.60					W=0.20
Ⅷ	0.70					W=0.20
Ⅷ	0.85					W=0.20
Ⅸ	0.40					W=0.20
Ⅹ	0.85					W=0.25
Ⅺ	0.50					W=0.20
Ⅻ	0.70					W=0.25
Ⅼ	0.40					W=0.20
Ⅽ	0.60					W=0.20
Ⅾ	0.50					W=0.20
Ⅿ	0.25					W=0.20
ⅰ	0.45					W=0.25
ⅱ	0.80					W=0.20
ⅲ	0.50					W=0.20
ⅳ	0.80					W=0.20
ⅴ	0.50					W=0.20
ⅵ	0.70					W=0.30
ⅵ	0.70					W=0.30
ⅶ		0.25				W=0.55
ⅷ	0.70					W=0.30
合計	16.65	0.25				
工種	ひびわれ 注入工	ひびわれ 注入工				
使用 材料	エポキシ樹脂 注入剤	エポキシ樹脂 注入剤				

上部工補修数量表

断面修復工（左官工法）		
番号	寸法（m）	面積（㎡）
Ⅰ	0.20 × 0.15	0.030
Ⅱ	0.30 × 0.30	0.090
Ⅲ	0.25 × 0.25	0.063
Ⅳ	0.30 × 0.20	0.060
Ⅴ	0.40 × 0.40	0.160
Ⅵ	0.38 × 0.30	0.114
Ⅶ	0.35 × 0.30	0.105
Ⅷ	0.30 × 0.50	0.150
Ⅸ	0.20 × 0.40	0.080
Ⅹ	0.30 × 0.30	0.090
Ⅺ	0.30 × 0.35	0.105
合 計		1.047

上部工補修数量表

表面含浸工（けい酸塩系含浸材）			
番号	寸法（m）	面数	面積（㎡）
①	0.300 × 13.550	2	8.130
②	0.506 × 13.550	2	13.713
③	0.750 × 13.550	2	20.325
④	0.410 × 13.550	3	16.667
⑤	0.750 × 13.550 - 0.370 × 0.300 × - 0.280 × 0.600	24	39.090
⑥	0.760 × 6.025	4	18.316
⑦	0.162 × (6.025 + 6.325) × 1/2	8	8.003
⑧	0.162 × (0.760 + 1.060) × 1/2	8	1.179
⑨	0.370 × 1.060	4	1.569
⑩	0.300 × 1.060	4	1.272
⑪	0.600 × 1.060	4	2.544
⑫	0.280 × 1.060	2	0.594
合 計			131.402

上部工補修数量表

水処理工			
名称	規格	単位	数量
下地処理	清掃、水洗い	㎡	—
水切り材	コンクリート構造物用 後付け型	m	27.100

※ コンクリート表面の下地処理工は、ひび割れ注入工法の工程内で行う。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 [㊤] 市 津和野 [㊤] 村 直地 [㊤] 地内
図面名称	直地橋 上部工補修数量表（その2） 縮尺
会社名 項目 測 量 調 査 設 計	会社名及び責任者
26 葉の内 7	

直地橋 上部工補修数量表（その3）

第3 径間

上部工補修数量表

ひび割れ						
番号	ひび割れ長さ（m）					ひび割れ幅（mm）
	0.2mm以上 0.5mm未満	0.5mm以上 1.0mm未満	1.0mm以上 5.0mm未満	5.0mm以上	遊離石灰を 伴うひび割れ	
Ⅱ	0.70					W=0.20
Ⅲ	0.70					W=0.20
Ⅳ	0.50					W=0.20
Ⅴ	0.60					W=0.20
Ⅵ	0.60					W=0.20
Ⅶ	0.25					W=0.30
Ⅷ	0.70					W=0.20
Ⅷ	0.80					W=0.20
Ⅸ	1.15					W=0.30
Ⅹ	0.65					W=0.25
Ⅺ	0.70					W=0.20
Ⅻ	0.60					W=0.20
Ⅼ	0.70					W=0.20
Ⅽ	0.75					W=0.25
Ⅾ	0.70					W=0.25
Ⅿ	0.75					W=0.35
ⅰ	0.70					W=0.20
ⅱ	0.65					W=0.20
ⅲ	0.60					W=0.20
ⅳ	0.70					W=0.20
ⅴ	0.40					W=0.20
ⅵ	0.50					W=0.20
ⅶ	0.60					W=0.25
ⅷ	0.60					W=0.25
ⅸ	0.60					W=0.20
ⅹ	0.70					W=0.30
ⅺ	0.75					W=0.35
ⅻ	0.50					W=0.30
ⅼ	0.70					W=0.20
ⅽ	1.15					W=0.30
ⅾ	0.70					W=0.20
ⅿ	0.60					W=0.20
ⅿ	0.70					W=0.25
ⅿ	1.15					W=0.30
ⅿ	0.70					W=0.30
ⅿ	0.70					W=0.35
ⅿ	0.60					W=0.35
ⅿ	0.70					W=0.20
ⅿ	0.50					W=0.30
ⅿ	0.70					W=0.30
ⅿ	0.70					W=0.30
ⅿ	0.70					W=0.20
ⅿ	0.75					W=0.20
ⅿ	0.70					W=0.25
合計	31.10					
工種	ひびわれ 注人工					
使用材料	エポキシ樹脂 注入剤					

上部工補修数量表

断面修復工（左官工法）		
番号	寸法 (m)	面積 (㎡)
Ⅱ	0.55 × 1.20	0.660
Ⅲ	0.40 × 0.30	0.120
Ⅳ	0.30 × 0.20	0.060
Ⅴ	0.38 × 0.20	0.076
Ⅵ	0.38 × 0.30	0.114
Ⅶ	0.38 × 0.30	0.114
Ⅷ	0.35 × 0.25	0.088
Ⅷ	0.38 × 0.50	0.190
Ⅸ	0.50 × 0.40	0.200
Ⅹ	0.30 × 0.40	0.120
Ⅺ	0.38 × 0.30	0.114
Ⅻ	0.20 × 0.25	0.050
Ⅼ	0.20 × 0.30	0.060
Ⅽ	0.20 × 1.20	0.240
Ⅾ	0.25 × 0.55	0.138
Ⅿ	0.40 × 0.30	0.120
ⅰ	0.25 × 0.25	0.063
ⅱ	0.30 × 0.30	0.090
ⅲ	0.20 × 0.25	0.050
ⅳ	0.30 × 0.30	0.090
合 計		2.757

上部工補修数量表

表面含浸工（けい酸塩系含浸材）			
番号	寸法 (m)	面数	面積 (㎡)
①	0.300 × 13.550	2	8.130
②	0.506 × 13.550	2	13.713
③	0.750 × 13.550	2	20.325
④	0.410 × 13.550	3	16.667
⑤	0.750 × 13.550 − 0.370 × 0.300 × − 0.280 × 0.600	24	39.090
⑥	0.760 × 6.025	4	18.316
⑦	0.162 × (6.025 + 6.325) × 1/2	8	8.003
⑧	0.162 × (0.760 + 1.060) × 1/2	8	1.179
⑨	0.370 × 1.060	4	1.569
⑩	0.300 × 1.060	4	1.272
⑪	0.600 × 1.060	4	2.544
⑫	0.280 × 1.060	2	0.594
合 計			131.402

上部工補修数量表

水処理工			
名称	規格	単位	数量
下地処理	清掃、水洗い	m ²	—
水切り材	コンクリート構造物用 後付け型	m	27.100

※ コンクリート表面の下地処理工は、ひび割れ注人工法の工程内で行う。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 [㊤] 市 津和野 [㊤] 村 直地 [㊤] 地内
図面名称	直地橋 上部工補修数量表(その3)
会社名	会社名及び責任者
項目	測 量
調 査	
設 計	
26 葉の内 8	

直地橋 上部工補修数量表（その4）

第4 径間

上部工補修数量表

ひび割れ						
番号	ひび割れ長さ（m）					ひび割れ幅（mm）
	0.2mm以上 0.5mm未満	0.5mm以上 1.0mm未満	1.0mm以上 5.0mm未満	5.0mm以上	遊離石灰を 伴うひび割れ	
Ⅱ	0.30					W=0.20
Ⅲ	0.20					W=0.20
Ⅳ	0.30					W=0.20
Ⅴ	0.80					W=0.20
Ⅵ	1.57					W=0.20
Ⅶ	0.80					W=0.20
Ⅷ	0.70					W=0.20
Ⅷ		0.25				W=0.50
Ⅸ	0.60					W=0.20
合計	5.27	0.25				
工種	ひびわれ 注入工	ひびわれ 注入工				
使用 材料	エポキシ樹脂 注入剤	エポキシ樹脂 注入剤				

上部工補修数量表

断面修復工（左官工法）		
番号	寸法（m）	面積（㎡）
Ⅱ	0.35 × 0.85	0.298
Ⅲ	0.30 × 0.30	0.090
Ⅲ	0.35 × 0.40	0.140
Ⅲ	0.30 × 0.30	0.090
Ⅲ	0.38 × 0.60	0.228
Ⅲ	0.25 × 0.45	0.113
Ⅲ	0.25 × 0.30	0.075
Ⅲ	0.40 × 0.80	0.320
Ⅲ	0.38 × 0.30	0.114
Ⅲ	0.50 × 0.30	0.150
Ⅲ	0.38 × 0.40	0.152
Ⅲ	0.30 × 0.20	0.060
Ⅲ	0.38 × 0.45	0.171
Ⅲ	0.38 × 0.75	0.285
Ⅲ	1.06 × 0.60	0.636
Ⅲ	0.95 × 0.55	0.523
合 計		3.445

上部工補修数量表

表面含浸工（けい酸塩系含浸材）			
番号	寸法（m）	面数	面積（㎡）
①	0.300 × 13.490	2	8.094
②	0.506 × 13.490	2	13.652
③	0.750 × 13.490	2	20.235
④	0.410 × 13.490	3	16.593
⑤	0.750 × 13.490 − 0.370 × 0.300 × − 0.280 × 0.600	2	38.910
⑥	0.760 × 5.995	4	18.225
⑦	0.162 × (5.995 + 6.295) × 1/2	8	7.964
⑧	0.162 × (0.760 + 1.060) × 1/2	8	1.179
⑨	0.370 × 1.060	4	1.569
⑩	0.300 × 1.060	4	1.272
⑪	0.600 × 1.060	4	2.544
⑫	0.280 × 1.060	2	0.594
合 計			130.831

上部工補修数量表

水処理工			
名称	規格	単位	数量
下地処理	清掃、水洗い	㎡	—
水切り材	コンクリート構造物用 後付け型	m	26.980

※ コンクリート表面の下地処理工は、ひび割れ注入工法の工程内で行う。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 [◎] 市 津和野 [◎] 村 直地 [◎] 地内
図面名称	直地橋 上部工補修数量表(その4)
会社名	会社名及び責任者
項目	測 量
調 査	
設 計	
26 葉の内 9	

直地橋 上部工補修数量表（その5）

第1～4 径間

上部工補修数量集計表

径間番号	ひび割れ長さ（m）				
	0.2mm以上 0.5mm未満	0.5mm以上 1.0mm未満	1.0mm以上 5.0mm未満	5.0mm以上	遊離石灰を 伴うひび割れ
1	36.70	0.20			
2	16.65	0.25			
3	31.10				
4	5.27	0.25			
合計	89.72	0.70			

上部工補修集計表

断面修復工（左官工法）	
径間番号	補修面積（㎡）
1	8.872
2	1.047
3	2.757
4	3.445
合計	16.121

上部工補修集計表

表面含浸工（けい酸塩系含浸材）	
径間番号	面積（㎡）
1	130.831
2	131.402
3	131.402
4	130.831
合計	524.466

上部工補修数量集計表

水処理工		
径間番号	下地処理	水切り材（m）
1	—	26.980
2	—	27.100
3	—	27.100
4	—	26.980
合計	—	108.160

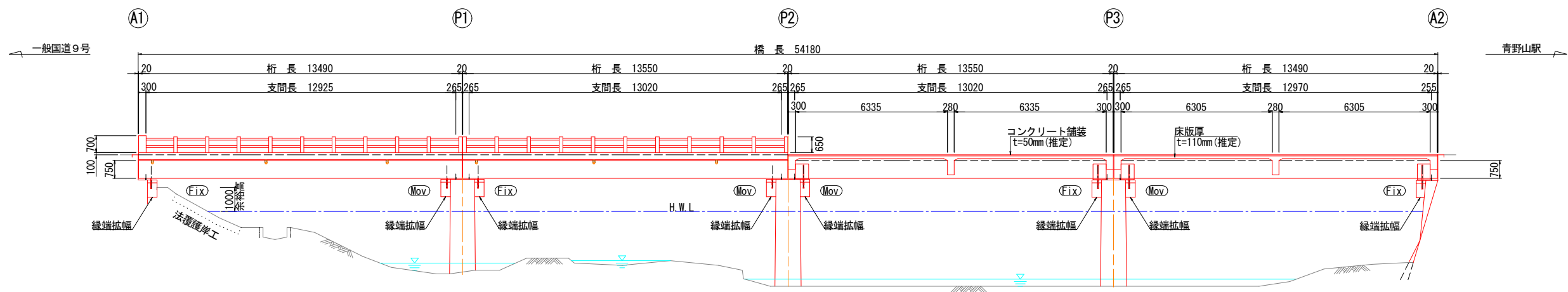
※ コンクリート表面の下地処理工は、ひび割れ注入工法の工程内で行う。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 ^⑩ 市 津和野 ^⑩ 村 直地 ^⑩ 地内
図面名称	直地橋 上部工補修数量表(その5)
項目	会社名
測 量	会社名及び責任者
調 査	
設 計	
26 葉の内 10	

直地橋 縁端拡幅一般図

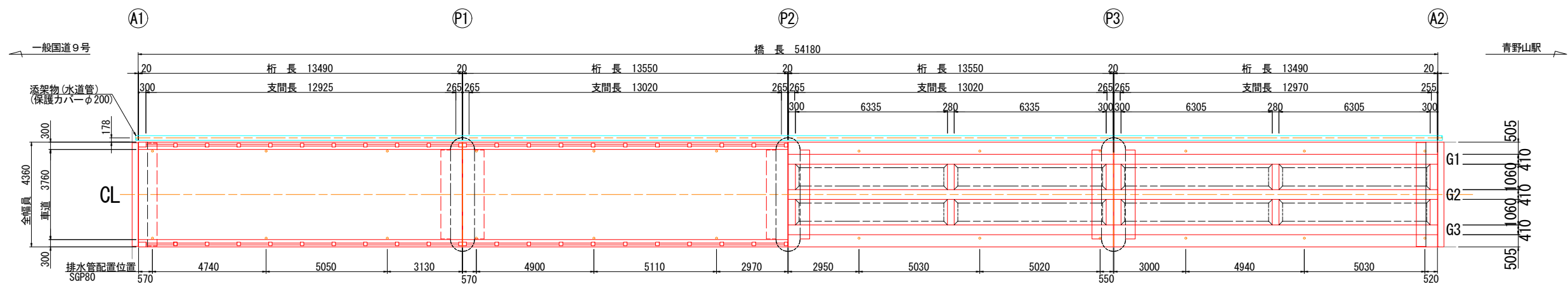
側面図

S=1:100



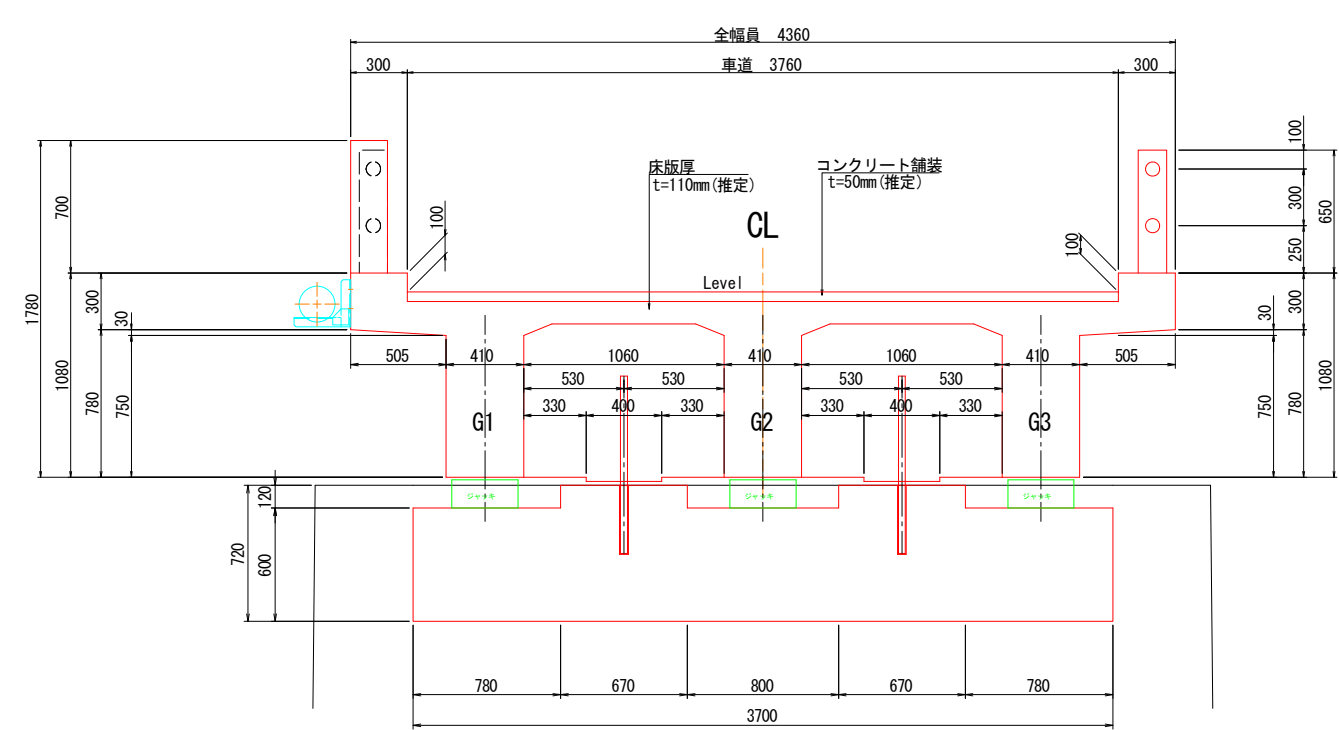
平面図

S=1:100



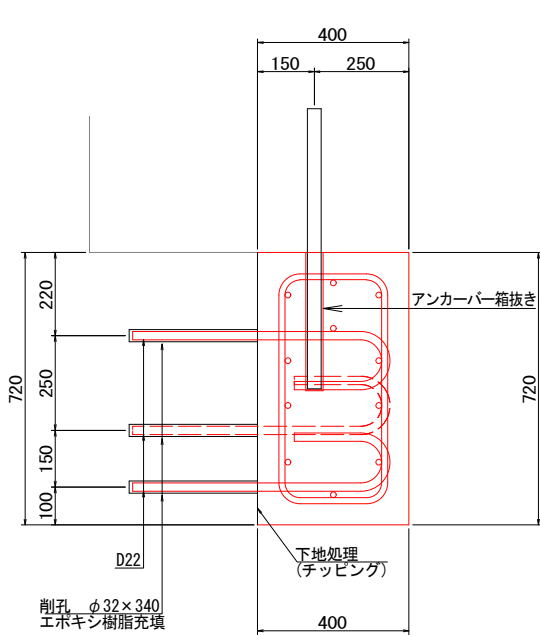
断面図

S=1:20



配筋概要図

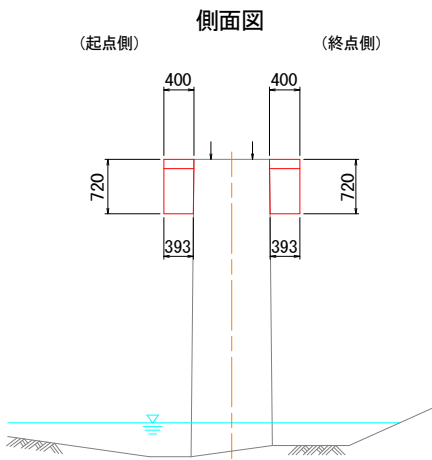
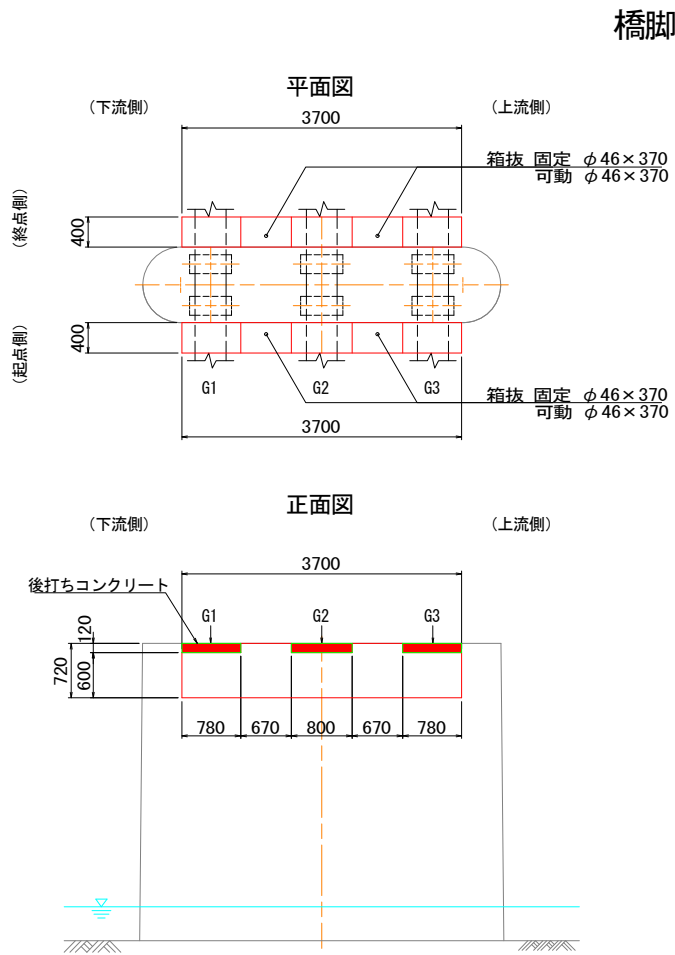
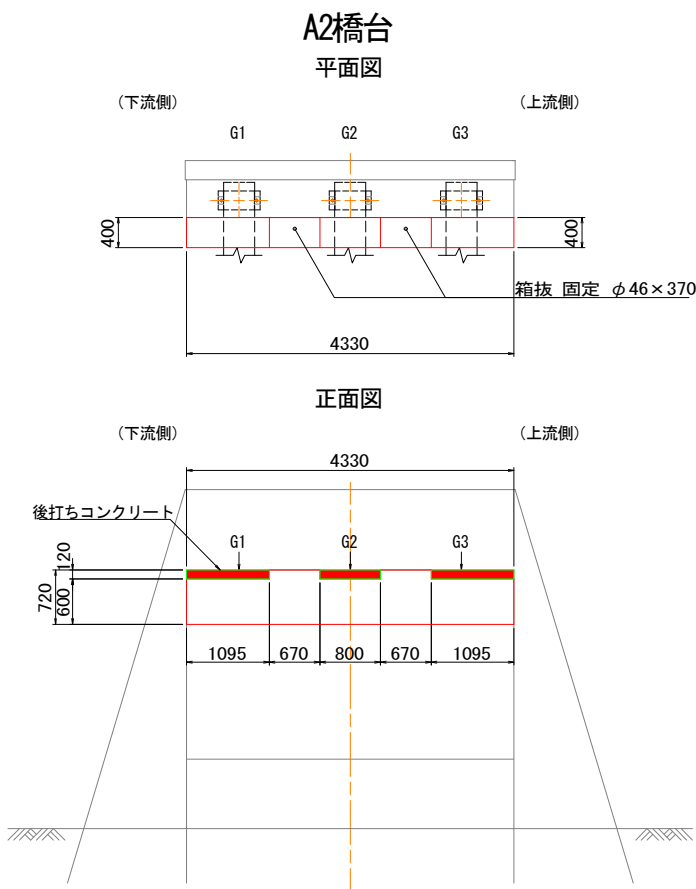
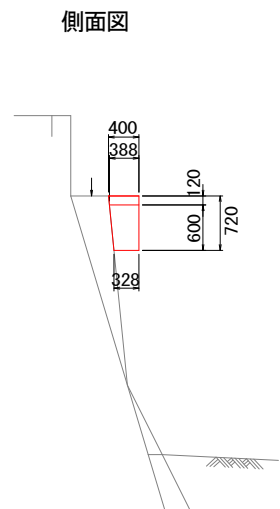
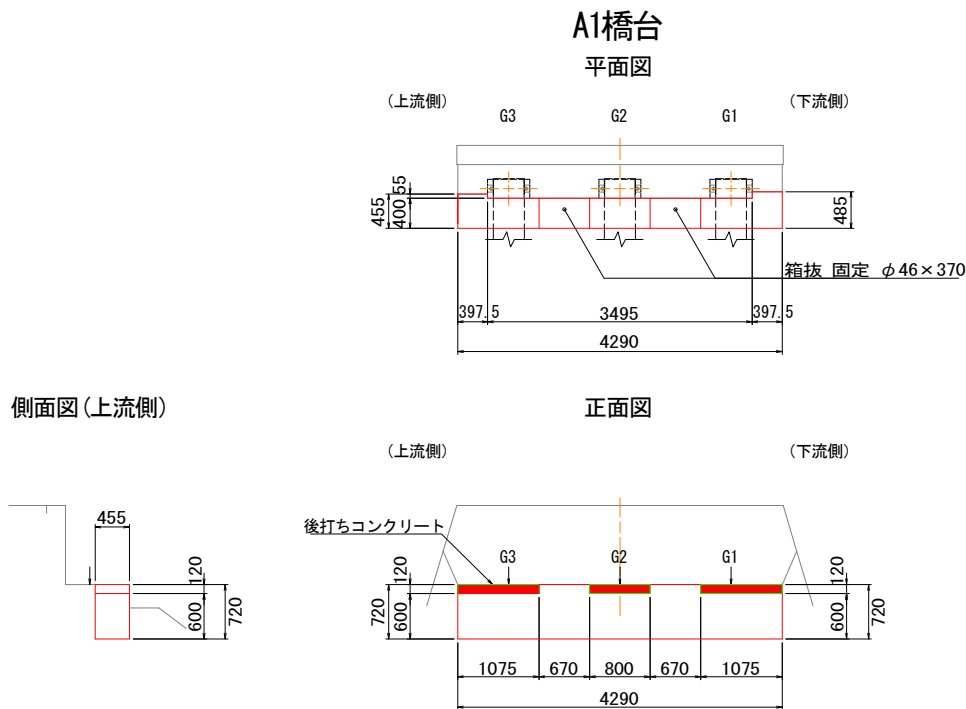
S=1:10



※本図面は橋梁台帳等および現地簡易計測から復元したものである。

年度	令和8年度
番号	災 号
工事名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 直地 地内
図面名称	直地橋 縁端拡幅一般図
会社名	会社名及び責任者
項目	測量
調査	
設計	
26	葉の内 11

直地橋 縁端拡幅詳細図(その1) S=1:50
(構造図)



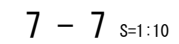
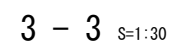
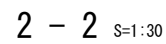
設計条件

コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
鉄筋材質	SD345

- 注) 1. 後打ちコンクリート部の上端は、沓座以外の天端に揃えること。
2. 後打ちコンクリートの打設高さは、現地にて再調査の上、必要に応じて調整すること。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 縁端拡幅詳細図(その1) 縮尺 図示
会社名	会社名及び責任者
項目	測 量
調 査	
設 計	
26 葉の内 12	

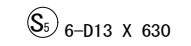
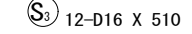
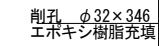
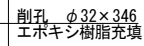
4 - 4 S=1:10



		269
合計D22	156 kg	
D16	109 kg	
D13	4 kg	
総質量	269 kg	

年 度	令和 8 年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 ^市 津和野 ^町 直地 ^町 地内
図面名称	直地橋 縁端拡幅詳細図(その2) 補図 図示
会社名	会社名及び責任者
測 量 者	
設 計	
	26 葉の内 13

(P1～P3橋脚配筋図)



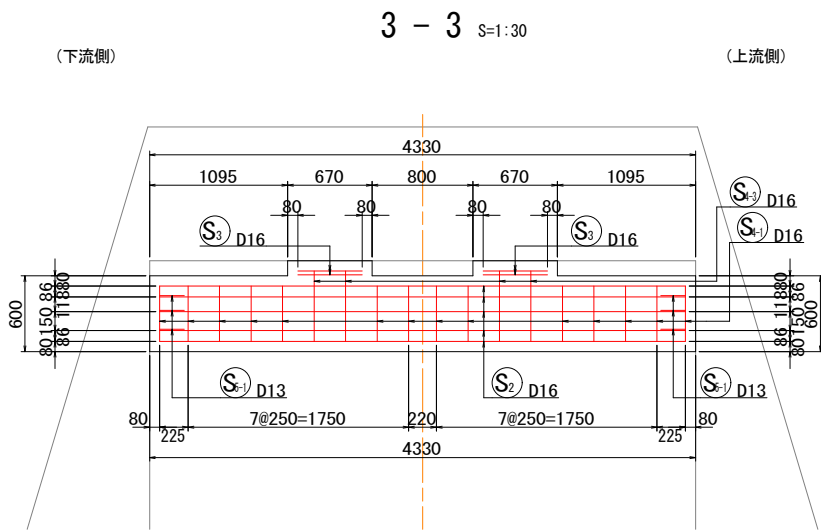
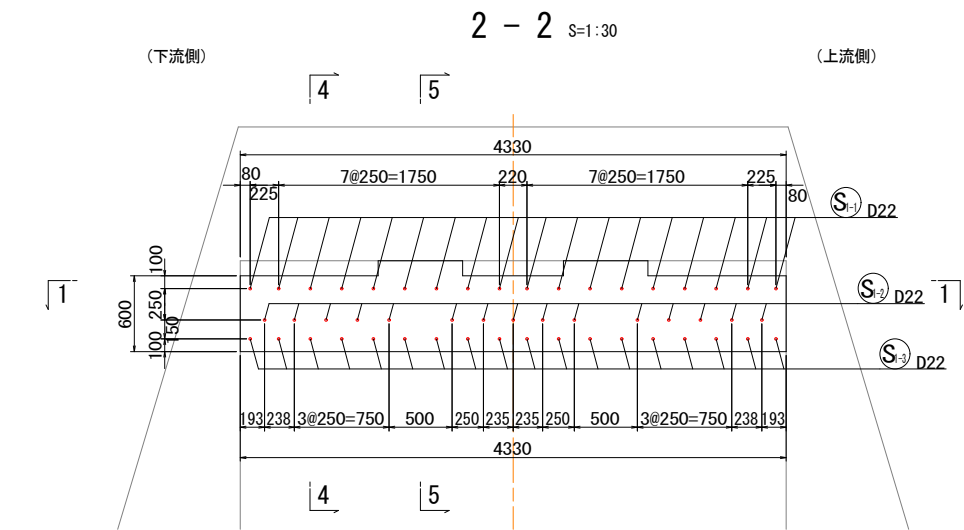
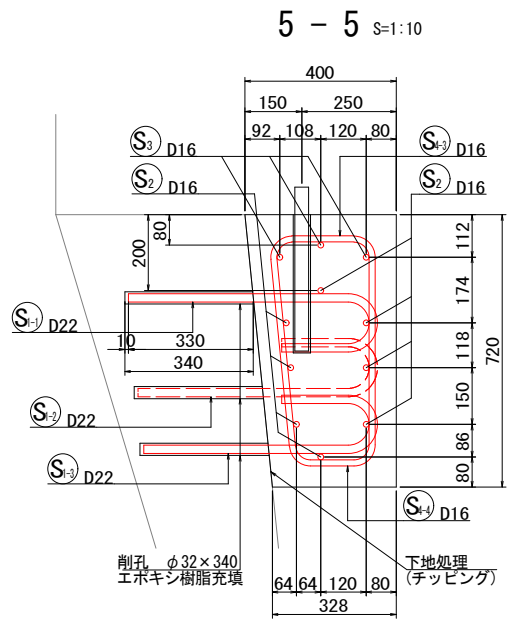
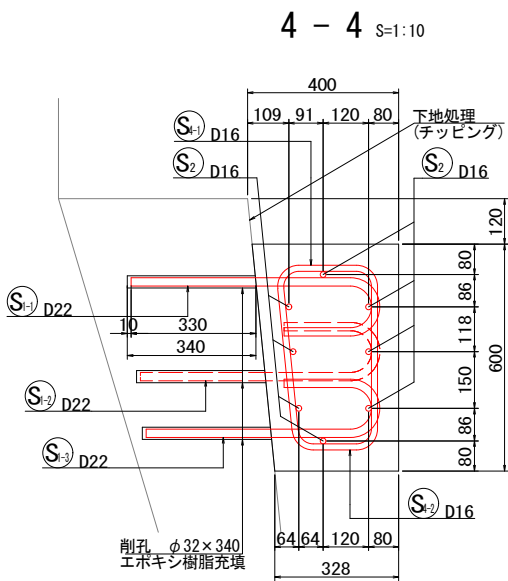
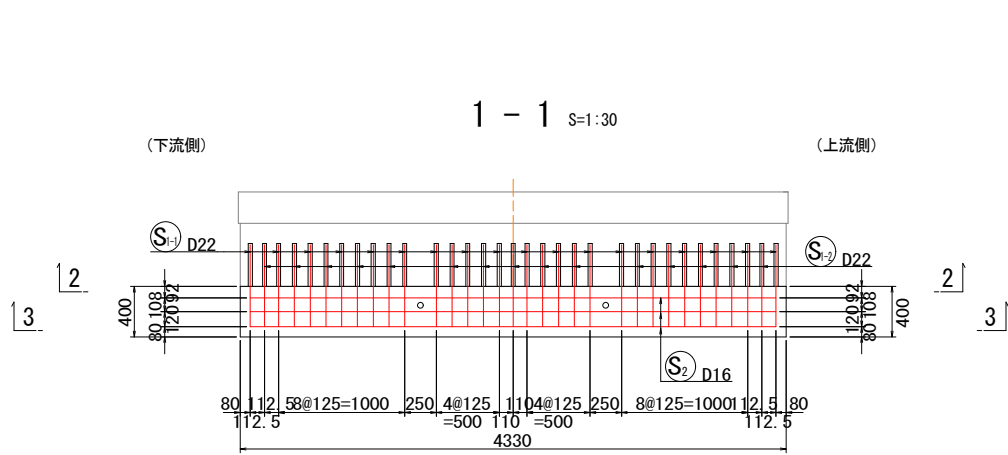
(SD345)

注記) 1. コンクリート削孔する際は、既設鉄筋を損傷させないように事前に鉄筋探査を行い、削孔位置を決定すること。

年 度	令和8年度	
番 号	災 号	
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事	
道川港名	町道直地線	
施工箇所	鹿足 ^⑧ 津和野 ^⑧ 直地 地内	
図面名称	直地橋 縁端幅詳細図(その3) 縮尺 図示	
委託者 項目 測 量 調 査 設 計	会社名及び責任者	
26 葉の内 14		

直地橋 縁端拡幅詳細図(その4)

(A2橋台配筋図)



鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1-1	D22	970	18	3.04	2.95	53	┐
S1-2	D22	940	15	3.04	2.86	43	┐
S1-3	D22	930	18	3.04	2.83	51	┐
S2	D16	4170	8	1.56	6.51	52	┐
S3	D16	510	6	1.56	0.796	5	┐
S4-1	D16	850	14	1.56	1.33	19	┐
S4-2	D16	840	14	1.56	1.31	18	┐
S4-3	D16	980	4	1.56	1.53	6	┐
S4-4	D16	960	4	1.56	1.50	6	┐
S5-1	D13	610	2	0.995	0.607	1	┐
S5-2	D13	590	2	0.995	0.587	1	┐
S5-3	D13	580	2	0.995	0.577	1	┐
256							
合計D22							147 kg
D16							106 kg
D13							3 kg
総質量							256 kg

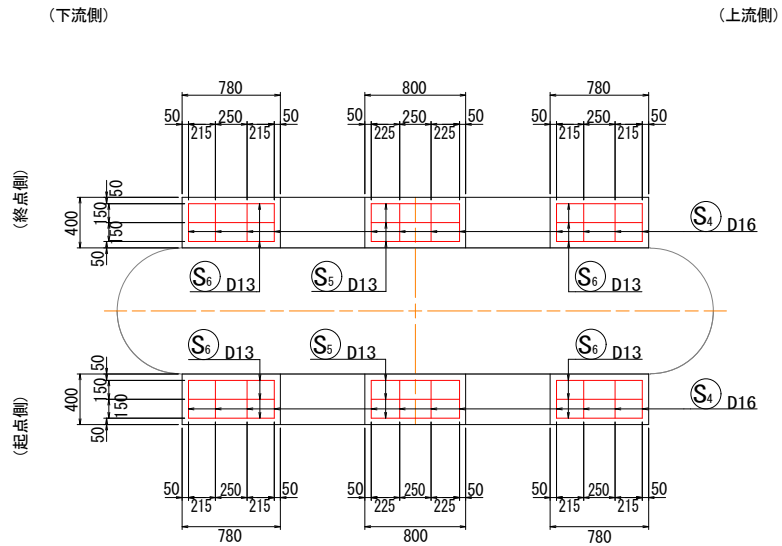
注記) 1. コンクリート削孔する際は、既設鉄筋を損傷させないように事前に鉄筋探索を行い、削孔位置を決定すること。

年度	令和8年度
番号	災 号
工事名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 直地 地内
図面名称	直地橋 縁端拡幅詳細図(その4)
会社名	会社名及び責任者
項目	測量
調査	
設計	
26 葉の内 15	

直地橋 縁端拡幅詳細図(その5)
(後打ちコンクリート配筋図)

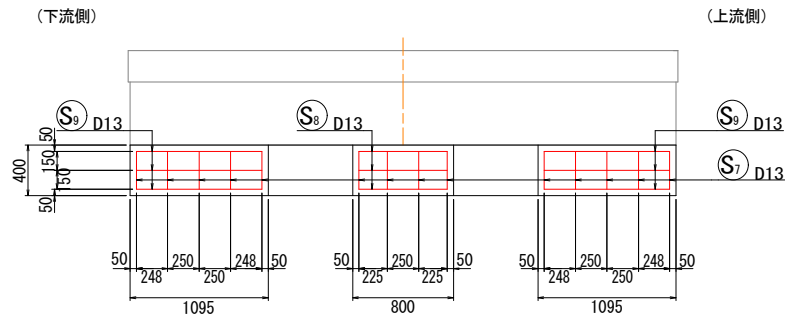
橋脚 S=1:30

平面図



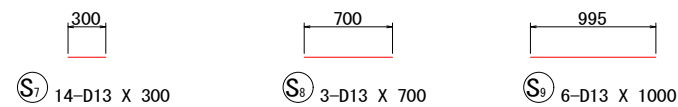
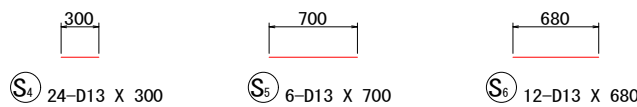
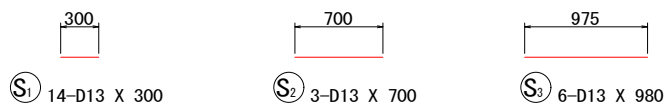
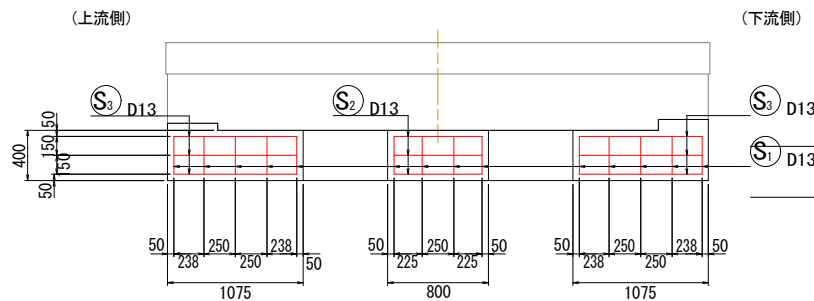
A2橋台 S=1:30

平面図

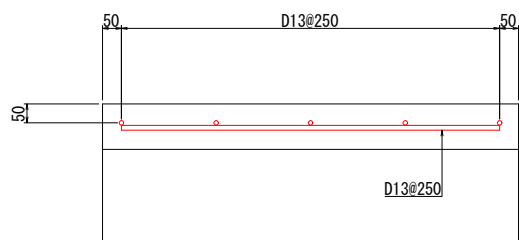


A1橋台 S=1:30

平面図



かぶり詳細図 S=1:10



鉄筋質量表

(SD345)

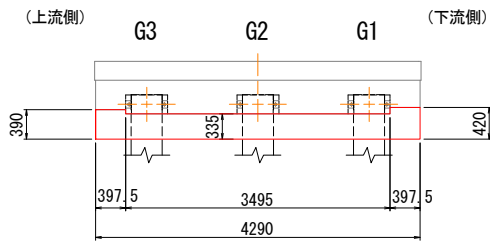
記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D13	300	14	0.995	0.298	4	――
S2	D13	700	3	0.995	0.696	2	――
S3	D13	980	6	0.995	0.975	6	――
12							
S4	D13	300	24	0.995	0.298	7	――
S5	D13	700	6	0.995	0.696	4	――
S6	D13	680	12	0.995	0.677	8	――
19							
S7	D13	300	14	0.995	0.298	4	――
S8	D13	700	3	0.995	0.696	2	――
S9	D13	1000	6	0.995	0.995	6	――
12							
合計D13							43 kg
総質量							43 kg

年度	令和8年度
番号	災 号
工事名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 縁端拡幅詳細図(その5) 縮尺 図示
会社名	会社名及び責任者
項目	測量
調査	
設計	
26 葉の内 16	

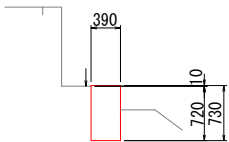
直地橋 縁端拡幅撤去詳細図

S=1:50

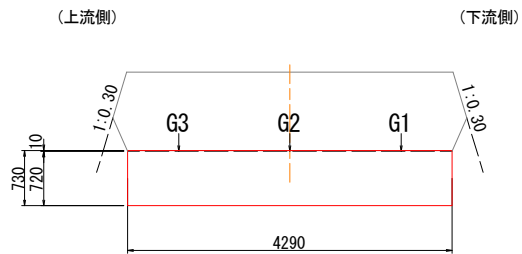
A1橋台
平面図



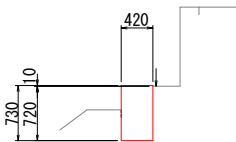
側面図 (上流側)



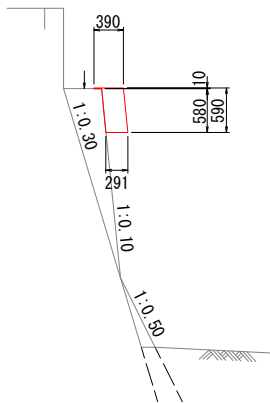
正面図



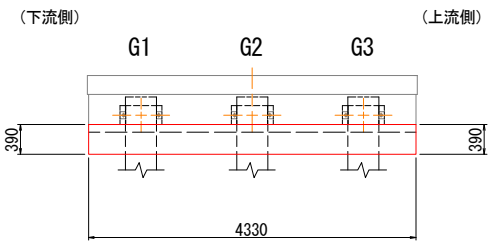
側面図 (下流側)



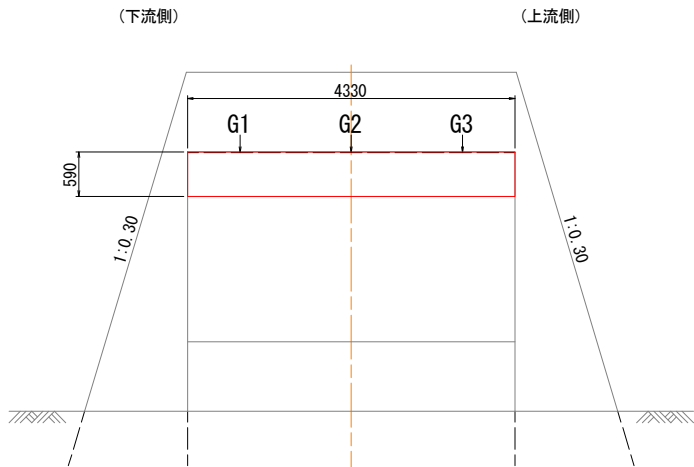
側面図



A2橋台
平面図

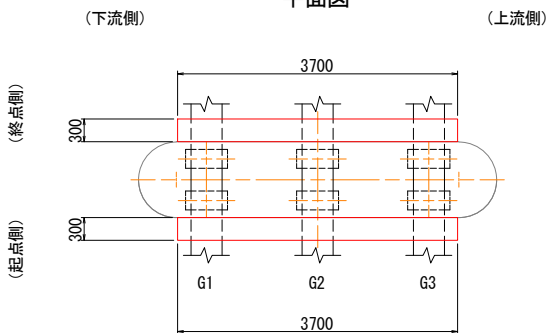


正面図

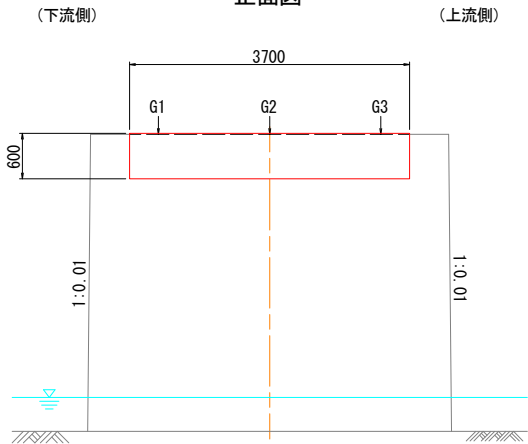


P1橋脚

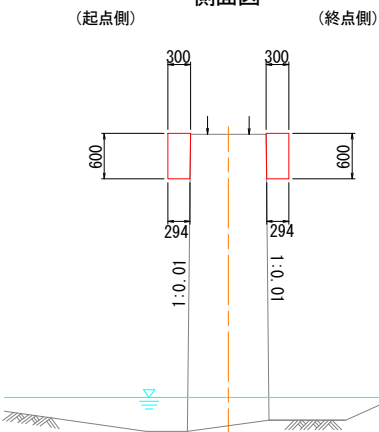
平面図



正面図

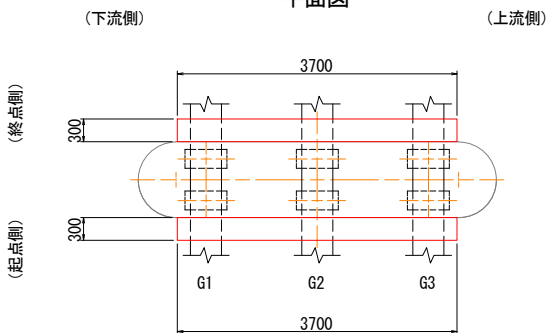


側面図

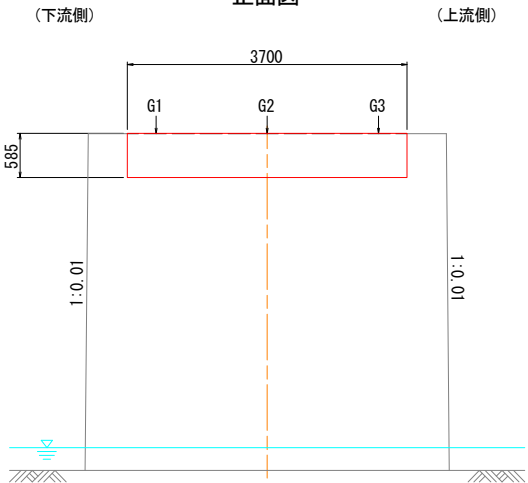


P2橋脚

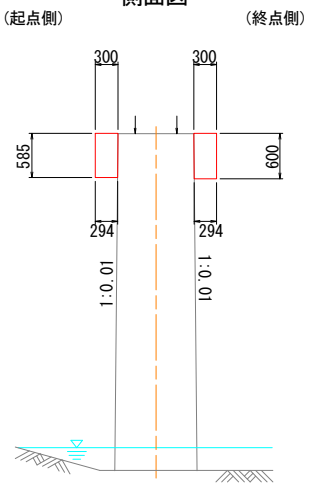
平面図



正面図



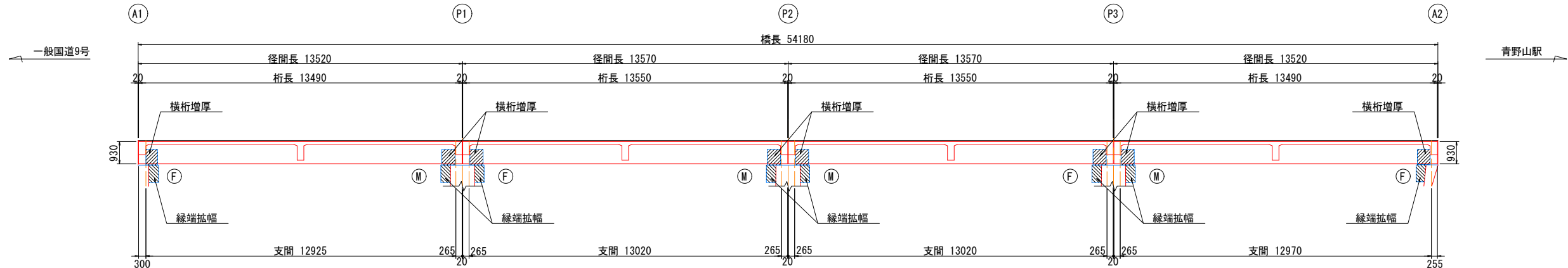
側面図



年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 直地 地内
図面名称	直地橋 縁端拡幅撤去詳細図
会社名	会社名及び責任者
測 量	
調 査	
設 計	
26 葉の内 17	

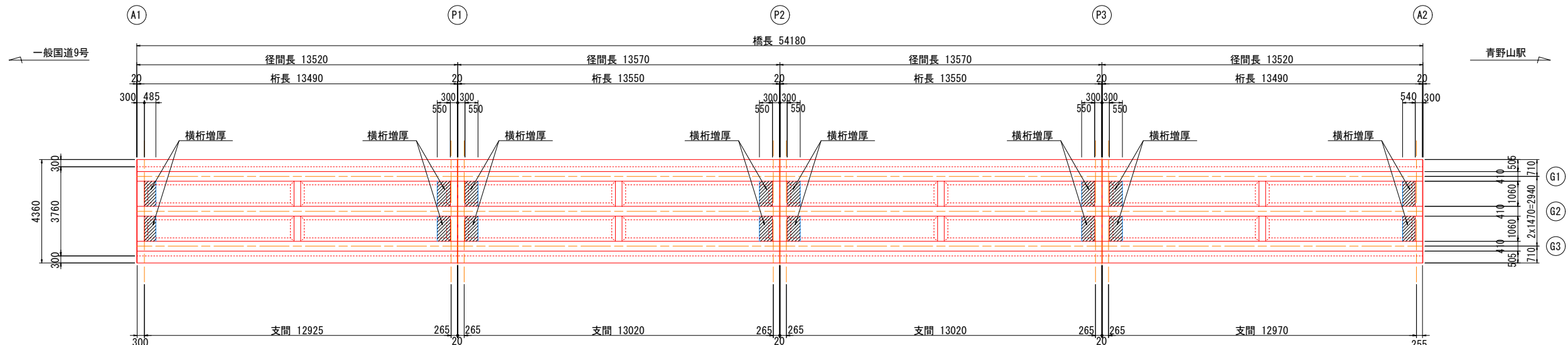
直地橋 支承取替一般図

側 面 図 S=1:100

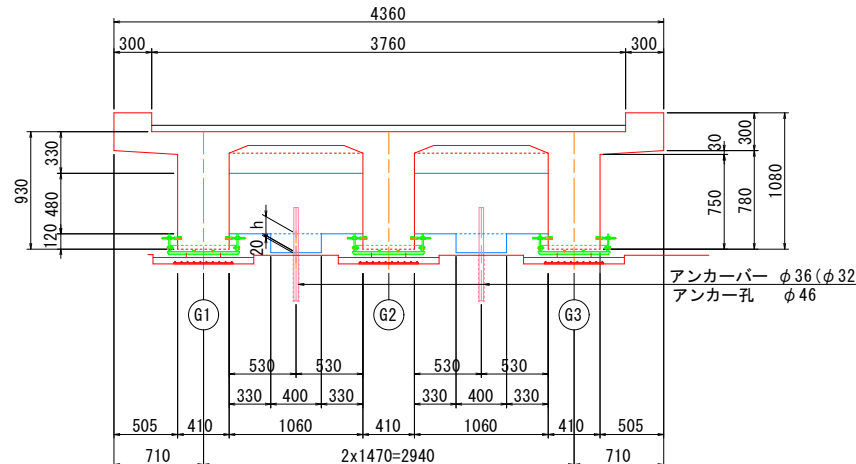


注) 支承の固定可動については現地にて調査を実施し確認すること

平面图 S=1:100



断面图 S=1:30



注) ()内は、可動側の値を示す。

变数表 (h)

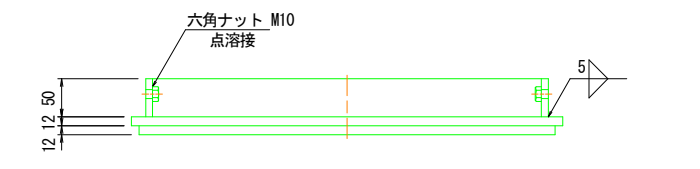
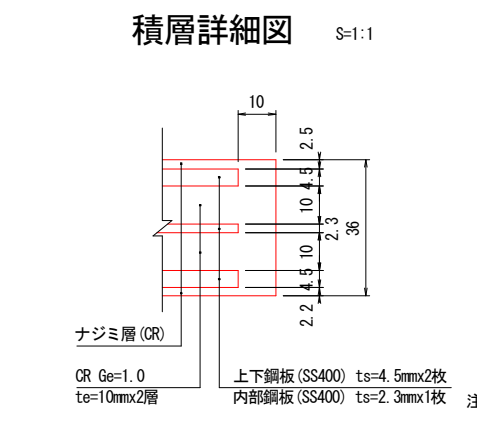
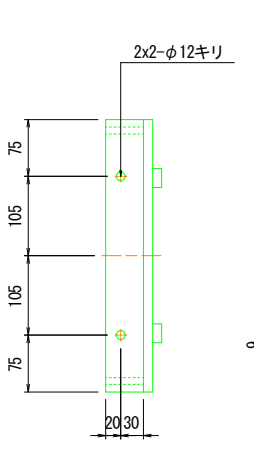
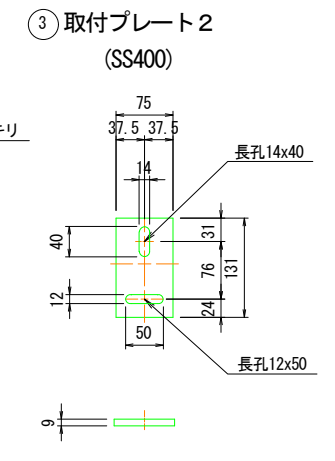
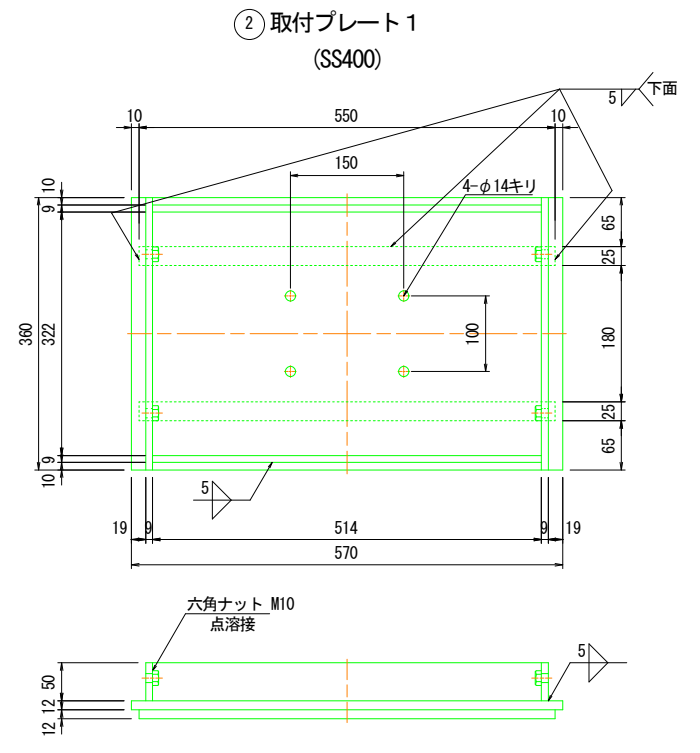
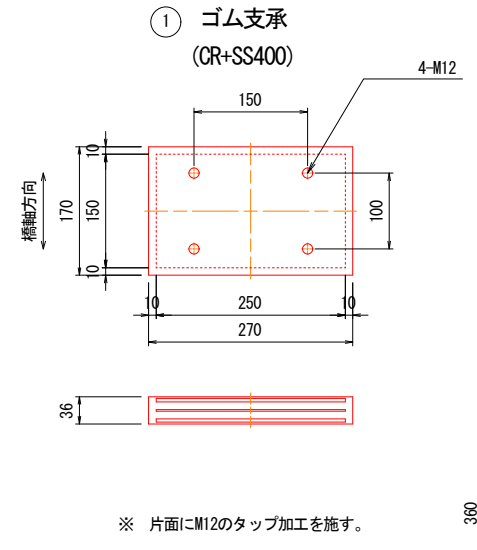
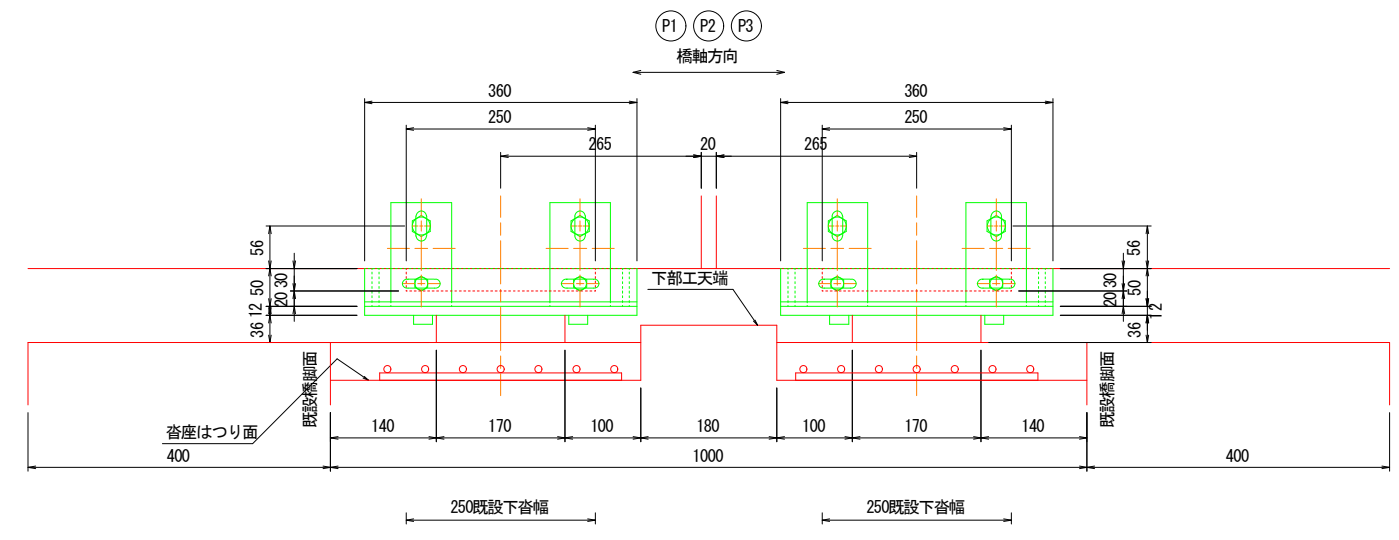
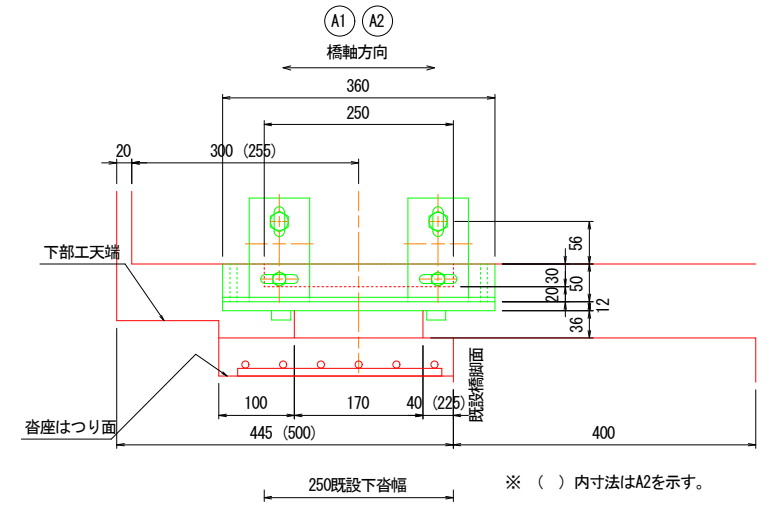
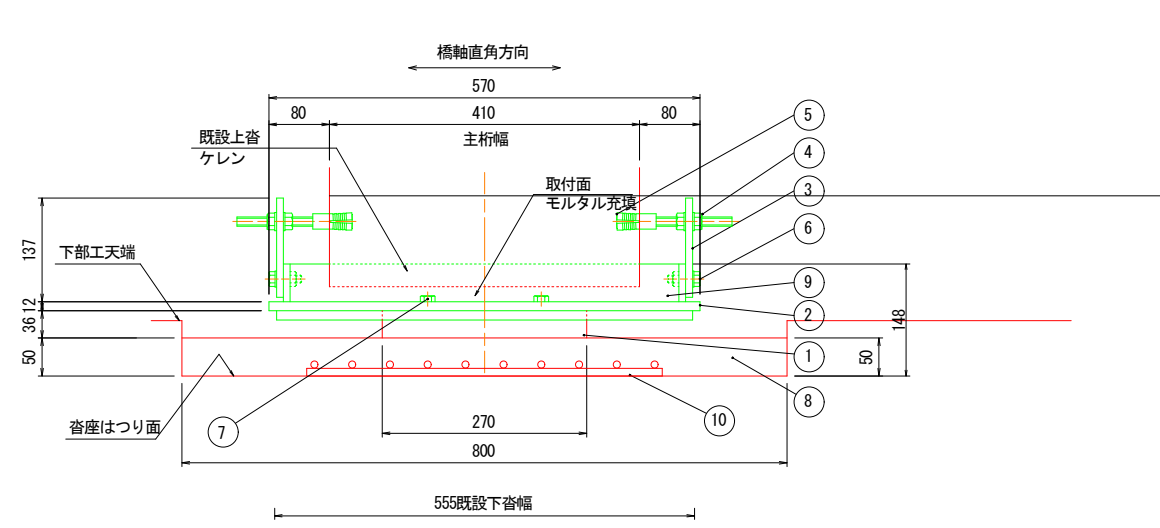
	A1	P1-L	P1-R	P2-L	P2-R	P3-L	P3-R	A2
G1-G2	163	142	155	132	163	165	165	152
G2-G3	165	148	155	139	153	165	165	155

注) 1. 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認の後、施工を行う事

2. コンクリートを削孔する際は、既設鉄筋に損傷を与えないように、事前に鉄筋探査を実施し削孔位置を決定すること。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工事名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 ^市 津和野 ^町 直地 ^{地区} 地内
図面名称	直地橋 支承取替一般図 縮尺 図示
会社名	会社名及び責任者
測 量	
設 計	
	26 章の内 18

直地橋 支承詳細図(その1)(参考図)



- 注
1. 実施工においては、再調査の上、図面整合等確認ののち、材料製作及び施工を行うこと。
 2. 沓座面のはつり時は、既設鉄筋を痛めないよう注意すること。
 3. 沓座面はつり後、はつり面に既設鉄筋がない場合は、補強格子鉄筋を設置すること。(D10x50x50)

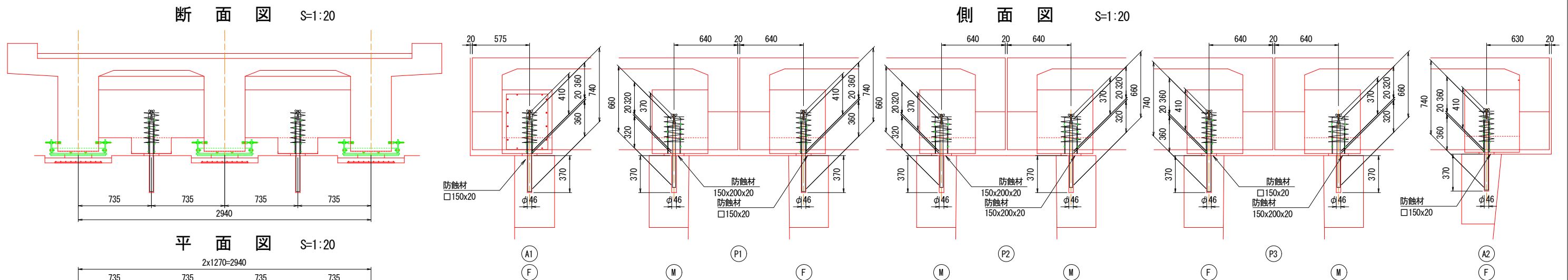
材 料 表 (1支承当り)

部番	名 称	材 質	個数	質 量 (kg)									備 考
				A1	P1L	PIR	P2L	P2R	P3L	P3R	A2		
①	ゴム支承	CR+SS400	1	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	CR Ge=1.0
②	取付プレート1	SS400	1	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	
③	取付プレート2	SS400	4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	
④	仮受ボルト(全ねじ)	――	4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	ナット2個付
⑤	コンクリートアンカー	――	4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	
⑥	六角ボルト・ナット	――	4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	
⑦	六角ボルト	――	4	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	平座金付
全質量				36.8	36.8	36.8	36.8	36.8	36.8	36.8	36.8	36.8	
部番	名 称	材 質	単位	数 量	数 量	数 量	数 量	数 量	数 量	数 量	数 量	数 量	備 考
⑧	沓座モルタル	無収縮モルタル	m3	0.012	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016	0.020	
⑨	充填用モルタル	無収縮モルタル	m3	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	
⑩	補強筋	SD345又はSD295	kg	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	

- ※○印は、SGめっき仕様とする。
※質量は、参考重量とする。
- ④ 仮受ボルト(全ねじ) M12x120 強度区分 4.6又は4.8
ナットM12用(ボルト1本に2個付)
- ⑥ 六角ボルト M10x35 強度区分 4.6又は4.8
平座金 10x21x2.0~10H
- ⑦ 六角ボルト M12x20 強度区分 4.6又は4.8

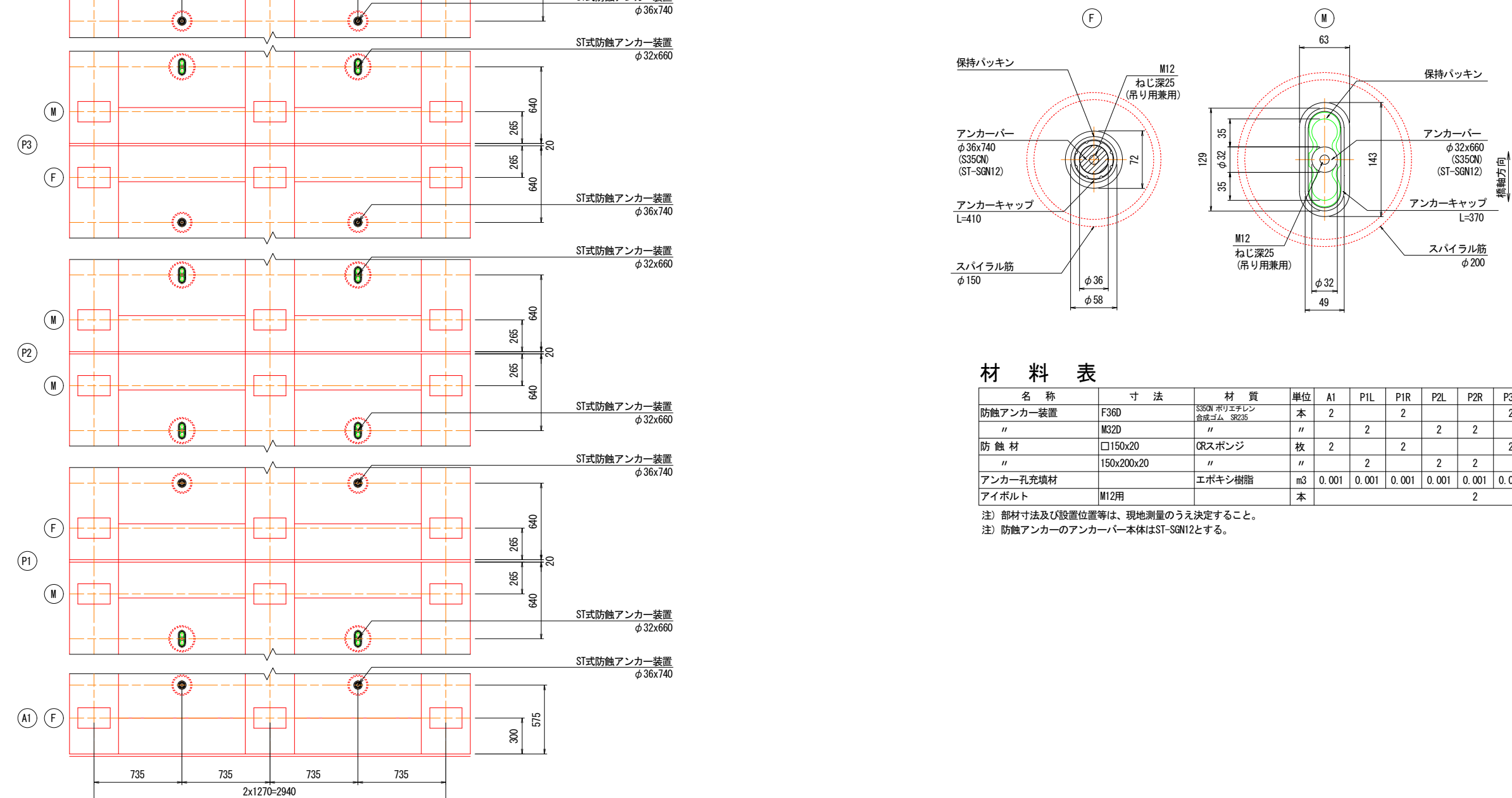
年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足市津和野町直地 地内
図面名称	直地橋 支承詳細図(その1)(参考図) 図示
会社名	会社名及び責任者
項目	
測 量	
調 査	
設 計	
26 葉の内 19	

直地橋 支承詳細図(その2)(参考図)



注) 支承の固定可動については現地にて調査を実施し確認するとともに、適切な位置に配置すること。

アンカーキャップ S=1:3



材 料 表

名 称	寸 法	材 質	単位	A1	P1L	P1R	P2L	P2R	P3L	P3R	A2	合計	備 考
防蝕アンカー装置	F36D	S35N ポリエチレン 合成ゴム SP235	本	2		2			2		2	8	ST-SGN12
〃	M32D	〃	〃		2		2	2		2		8	〃
防 蝕 材	□150x20	ORスポンジ	枚	2		2			2		2	8	
〃	150x200x20	〃	〃		2		2			2		8	
アンカー孔充填材		エポキシ樹脂	m3	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.008	
アイボルト	M12用		本					2				2	

注) 部材寸法及び設置位置等は、現地測量のうえ決定すること。

注) 防蝕アンカーのアンカーバー本体はST-SGN12とする。

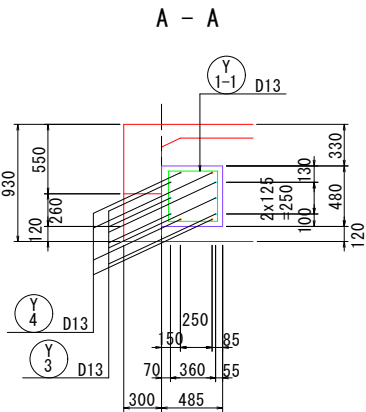
年 度	令和 8 年度		
番 号	災 号		
工事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事		
道川港名	町道直地線		
施工箇所	鹿足 ^⑧ 津和野 ^⑦ 直地 地内		
図面名称	直地橋 支承詳細図(その2)(参考図) 縮尺 図示		
項目	会社名 会社名及び責任者		
測 量 査			
設 計			
	26 葉の内 20		

直地橋 横桁増厚図

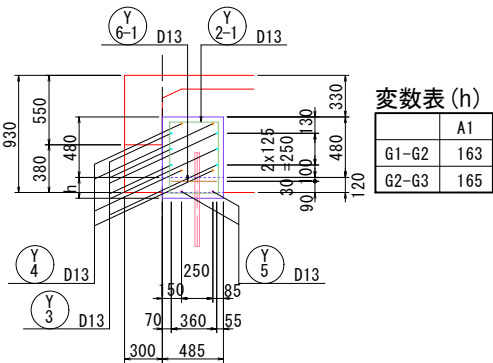
側面図

S=1:30

A1 側



B - B

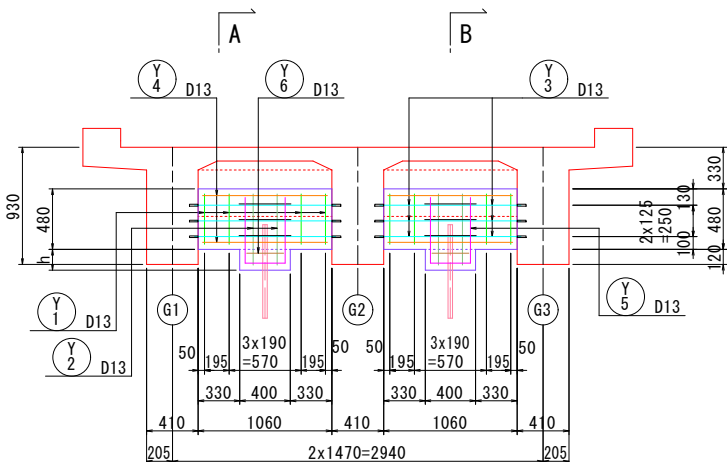


変数表 (h)

	A1
G1-G2	163
G2-G3	165

断面図

S=1:30



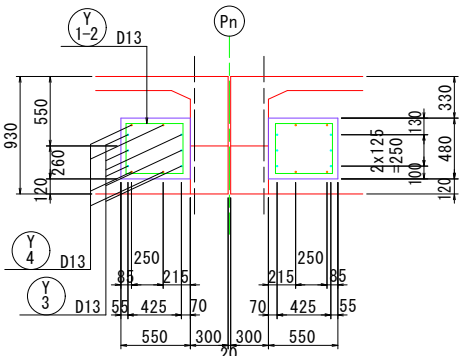
鉄筋表

(1橋当たり)

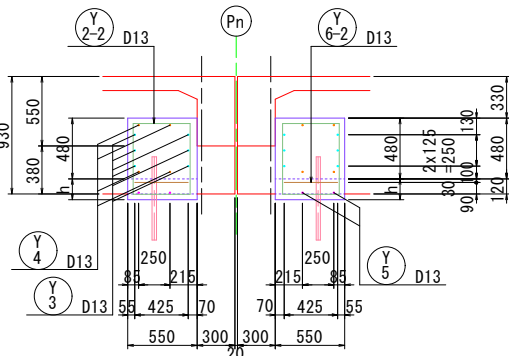
記 号	径 (mm)	長 さ (mm)	本 数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	形 状 (備 考)
Y 1-1	D13	1960	8	0.995	1.95	16	□
Y 1-2	〃	2090	48	〃	2.08	100	□
Y 1-3	〃	2070	8	〃	2.06	16	□
Y 2-1	〃	2290	4	〃	2.28	9	□ (平均長)
Y 2-2	〃	2390	24	〃	2.38	57	□ (平均長)
Y 2-3	〃	2380	4	〃	2.37	9	□ (平均長)
Y 3	〃	770	192	〃	0.77	148	——
Y 4	〃	990	64	〃	0.99	63	——
Y 5	〃	1360	32	〃	1.35	43	U
Y 6-1	〃	1700	2	〃	1.69	3	□
Y 6-2	〃	1830	6	〃	1.82	11	□
Y 6-3	〃	1810	2	〃	1.80	4	□
SD345 D13				479 kg			
総質量				479 kg			
ケミカルアンカー D13用 192 個							

P1, P2, P3 側

A - A



B - B

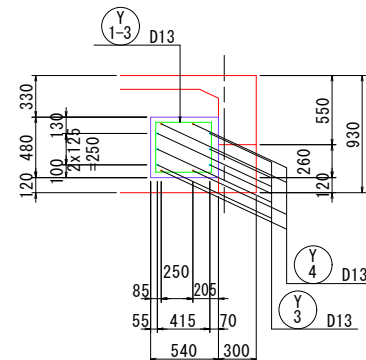


変数表 (h)

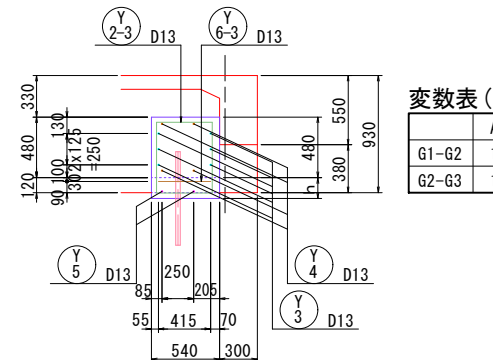
	P1-L	P1-R	P2-L	P2-R	P3-L	P3-R
G1-G2	142	155	132	163	165	165
G2-G3	148	155	139	153	165	165

A2 側

A - A



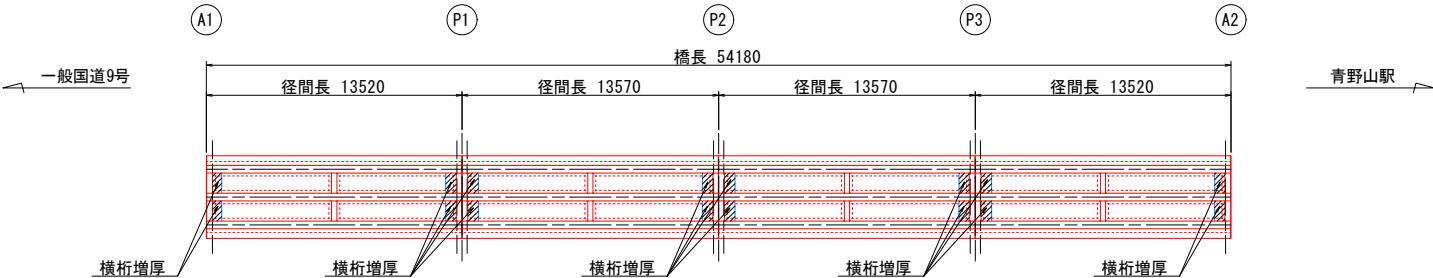
B - B



変数表 (h)

	A2
G1-G2	152
G2-G3	155

位置図



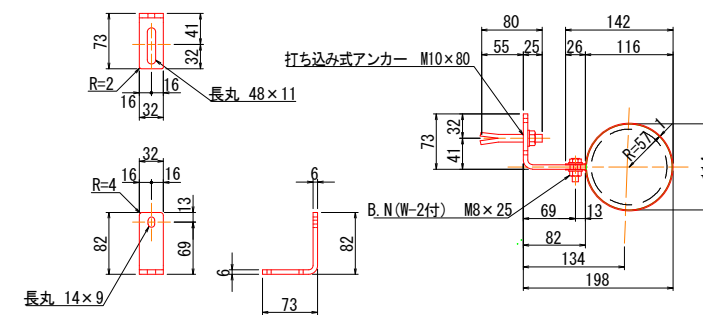
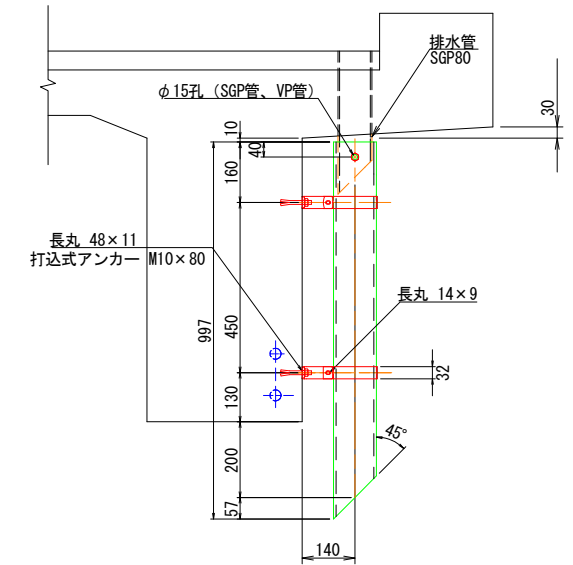
注) 1. 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認の後、施工を行う事。

2. コンクリートを削孔する際は、既設鉄筋に損傷を与えないように、事前に鉄筋探査を実施し削孔位置を決定すること。

年度	令和8年度
番号	災 号
工事名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 直地 地内
図面名称	直地橋 横桁増厚図
会社名	会社名及び責任者
項目	測量
調査	
設計	
26 葉の内	21

S=1:10

標準断面図

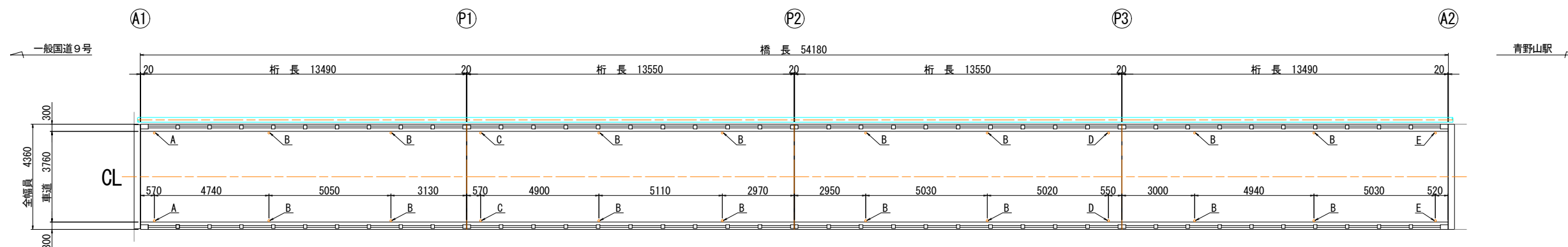

$$900 \times 300 = 9000 = 0.09 \text{ m}$$
$$0.09 \times 24 = 2.16 \text{ m}$$

1-吊配管金具 (ステンVP吊タン無し)
1-PL 6×32×145 (SUS304)
1-B.N M8×25 (2-W付, SUS304)
1-打込式アンカー M10×80 (SUS304)

注記

1. 特記なき鋼材は全てSUS304相当品とする。
2. ナットは全て緩み止めナットを使用すること。
3. 打込式アンカーの削孔前に、鉄筋探査を行い鉄筋の切断に注意すること。

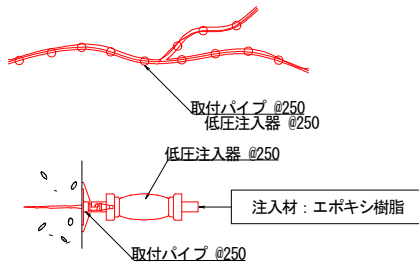
青野山駅



年 度	令和 8 年度	
番 号	災	号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事	
道川地名	町道直地線	
施工箇所	鹿足 ^④ 津 ^④ 野 ^④ 直地	地内
図面名称	直地橋 排水施設補修図 縮尺 図示	
項目	会社名	
測 量 査	会社名及び責任者	
設 計		
26 葉 の 内 22		

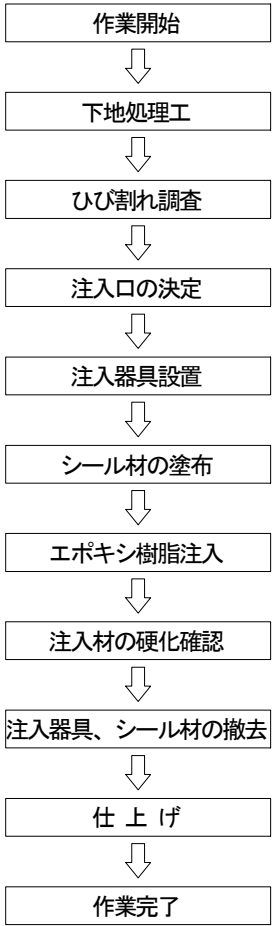
直地橋 補修要領図（その1）（参考図）

ひび割れ注入工

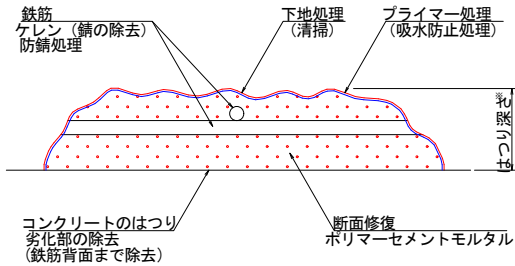


- ※ コンクリート表面の汚れ、苔、遊離石灰などを入念に除去後、ひび割れの発生状況（数量）を再調査、確認すること。
- ※ 気温5℃以下では施工しないこと。
- ※ 鉛直方向のひびわれについては、特に注入材の逸脱に注意すること。
- ※ 注入材は可使時間内に注入を行い、可使時間を過ぎた材料については使用しないこと。
- ※ 注入はひびわれの下方から上方向に向かって、順次注入を行う。
- ※ 注入器具の取付け（注入口）は25cm間隔を基本とする。
- ※ 材料を環境中に直接廃棄することは厳禁とし、産業廃棄物処理など適切な処理を行うこと。
- ※ ひび割れ注入材料の保管場所は、直射日光を避け、冷暗所に保管すること。
- ※ 材料の取り扱いには、必ず取扱説明書を確認し、正しく使用すること。
- ※ ひび割れ注入材の注入量などの施工管理については、事前に施工者と発注者間で協議し相互確認を行うとともに、方針を決定すること。

施工手順



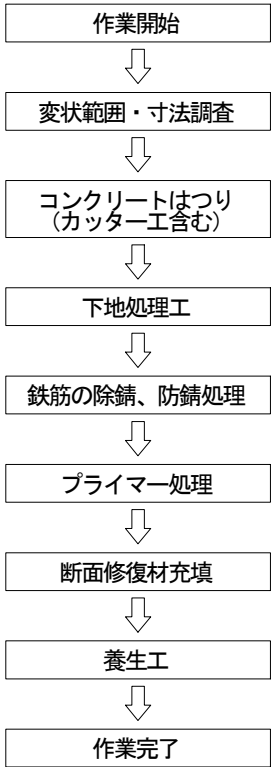
断面修復工
(左官工法)



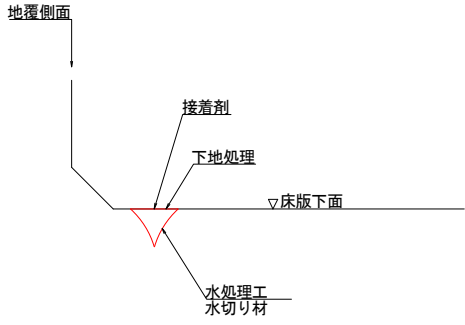
- ※ 施工数量は、施工前に現地で再調査、実測のうえ、決定すること。
- ※ 気温、湿度、温度、降雨降雪風等の気象現象に十分注意すること。
- ※ 材料選択における注意点として、施工後の温度変化（特に温度が低下する場合）によって収縮する際に、引張破壊を生じる可能性があるため、事前に確認しておく必要がある。
- ※ 下地処理では、脆弱部のはつりや目荒らし、清掃を行う。
- ※ プライマーの可使時間内に充填材を充填すること。
- ※ はつり端部はフェザーエッジにならないよう、L字カットを行うこと。
- ※ はつり作業は、鉄筋を傷めないよう注意すること。
- ※ はつり範囲は鉄筋の腐食状況やコンクリートの劣化状況に応じて変更すること。
- ※ コンクリートをはつった際、内部鉄筋が錆びていた場合には、十分に除錆し防錆処理を行うこと。
- ※ 部材下面（上向き）の施工時には、薄層の多層塗りとする。
- ※ はつり深さが大きいなど、厚塗りが必要となる場合には、一層塗りを行って多層塗りとする。
- ※ 修復後は十分に養生を行い、天候が悪く降雨になりそうな際には雨養生を行うこと。
- ※ 養生（シート養生等）を行った後は被覆養生剤を塗布するなど、日光や風の影響（急激な水分蒸発）を少なくする工夫を行うのが望ましい。
- ※ 設計上のはつり深さは下表のとおりとするが、施工時には現地の鉄筋状況（鉄筋位置、腐食状況等）やコンクリートの劣化状況に応じて、はつり深さを調整、変更すること。

部材名	はつり深さ（mm）
主 桁	約 110

施工手順

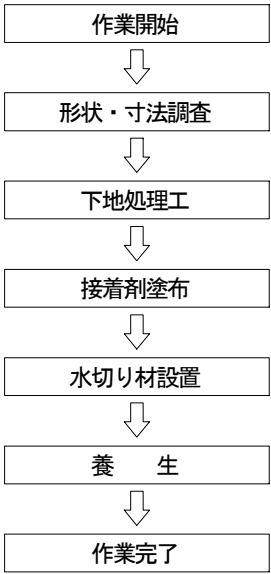


水処理工

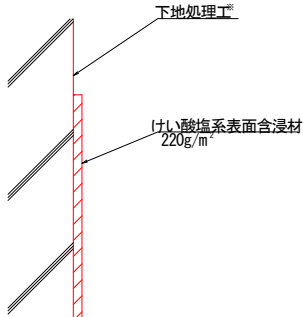


- ※ 施工数量は、施工前に現地で再実測のうえ、決定すること。
- ※ 気温、湿度、温度、降雨降雪風等の気象現象に十分注意すること。
- ※ コンクリート表面の下地処理工は、水切り材設置前に接着面のホコリや油分等の付着物を取り除くものである。
- ※ 水切り材は、床版下面の上下流端部（2箇所）で橋軸方向に設置する計画である。
- ※ 接着剤の可使時間内に水切り材を設置すること。
- ※ 製品は直射日光を避け、屋内に保管すること。
- ※ 製品の使用前には、製品添付の取扱説明書を確認すること。
- ※ 施工後、天候が悪く降雨になりそうな際には雨養生を行うこと。

施工手順

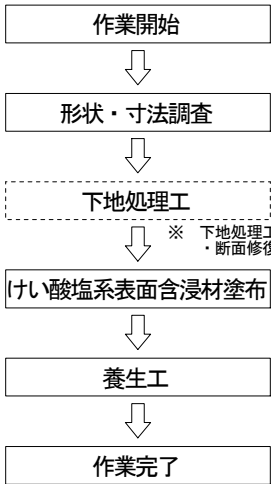


表面保護工



- ※ 表面含浸材は、けい酸塩系（けい酸ナトリウム・けい酸カルシウム）とする。
- ※ 表面含浸材の標準塗布量は、220g/m²とする。
- ※ 表面含浸材を数回に分けて含浸する場合、塗り重ね間隔等は製造業者の指定する方法に従うこと。
- ※ 表面含浸材の塗布後は、浸透と反応を促進させる為に乾燥しないよう水養生（約90分以上）を行うこと。
- ※ コンクリート表面の下地処理工は、ひび割れ注入工。断面修復工の工程内で行う。
- ※ 気温5℃以下では施工しないこと。
- ※ 材料は可使時間内に使用し、可使時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順

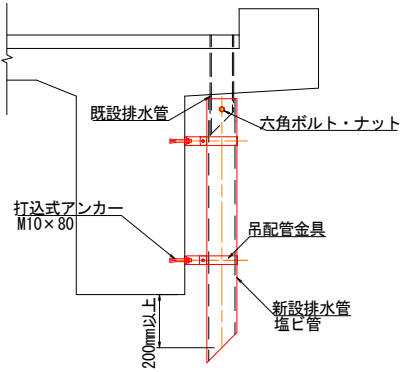


- ※ 下地処理工はひび割れ注入工・断面修復工の工程内で行う。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 [◎] 市 津和野 [◎] 村 直地 [◎] 地内
図面名称	直地橋 補修要領図(その1) (参考図)
会社名	会社名及び責任者
項目	測 量
調 査	
設 計	
	26 葉の内 23

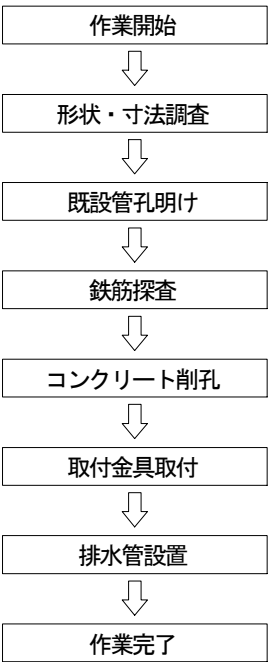
直地橋 補修要領図（その2）（参考図）

排水装置工

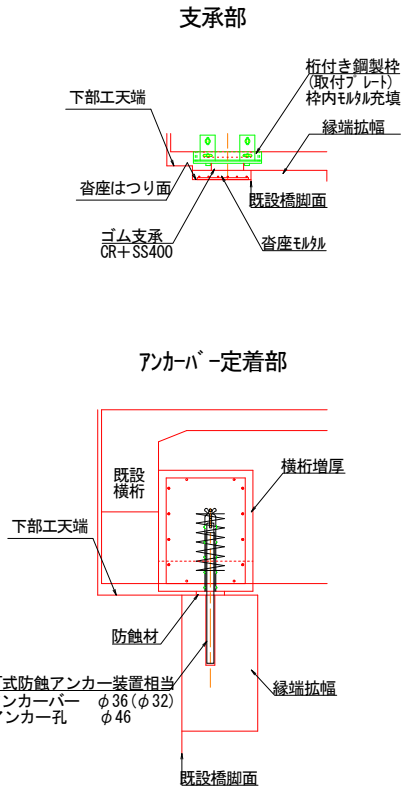


- ※ 既設鋼管への孔明けはVP管孔との調整を行い施工すること。
- ※ 既設鋼管と新設VP管の重なりを確認すること。
- ※ 取付金具の取付け位置は、鉄筋探査により主桁鉄筋を極力切断しないよう調整を行うこと。
- ※ ボルト、ナットは締め忘れがないか確認のこと。
- ※ 排水樹から流水し、連結部からの無漏水、VP管先端からの確実な吐水を確認のこと。

施工手順

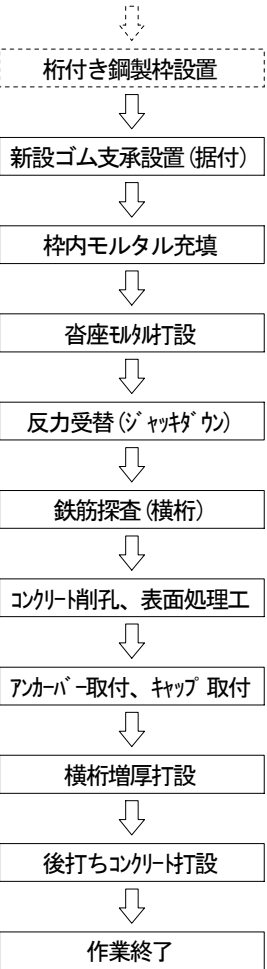
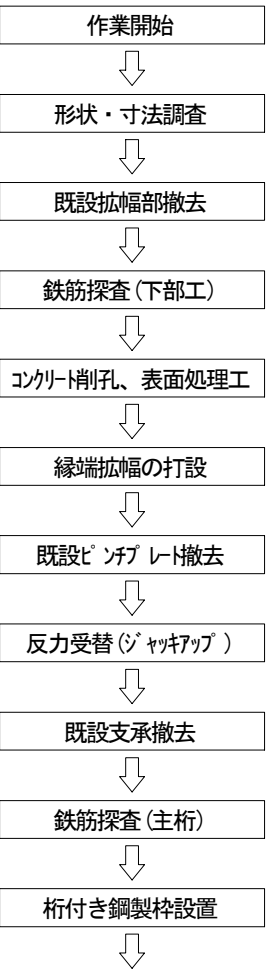


支承取替工



- ※ 支承の固定可動については、現地にて調査を実施し確認するとともに、適切な位置に配置すること。
- ※ 実施工においては、再調査の上、図面整合等確認ののち、材料製作及び施工を行うこと。
- ※ 沓座面のはつり時は、既設鉄筋を痛めないよう注意すること。
- ※ 沓座面はつり後、はつり面に既設鉄筋がない場合は、補強格子鉄筋を設置すること。（D10x50x50）
- ※ 鋼製部品の防錆仕様は、SGめっき仕様とする。
- ※ 防蝕アンカーのアンカーバー本体はST-SGN12相当とする。
- ※ 後打ちコンクリート部の上端は、沓座モルタルの天端に揃えること。
- ※ 後打ちコンクリートの打設高さは、現地にて再調査の上、必要に応じて調整すること。

施工手順



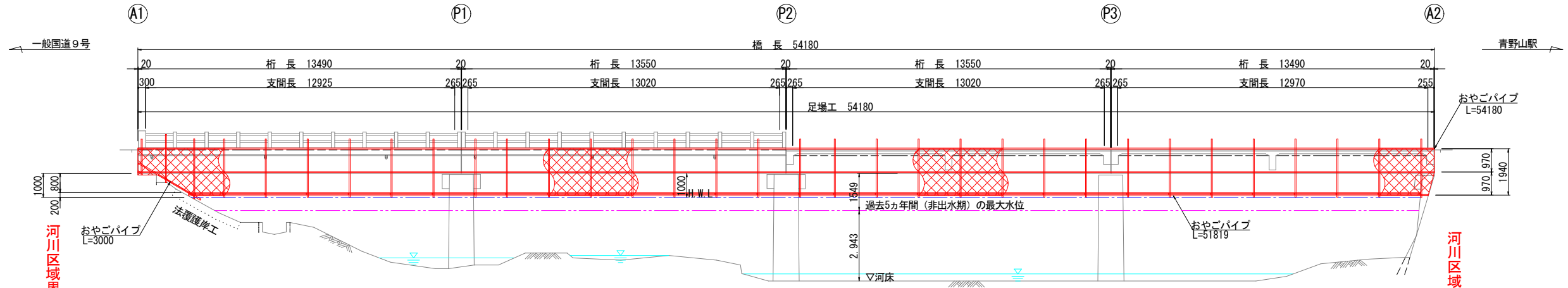
年 度	令和8年度			
番 号	災 号			
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事			
道川港名	町道直地線			
施工箇所	鹿足	津和野	直地	地内
図面名称	直地橋 補修要領図(その2)(参考図)			
会社名	会社名及び責任者			
項目	測量			
調査				
設計				
26 葉の内 24				

河川区域界
(推定)

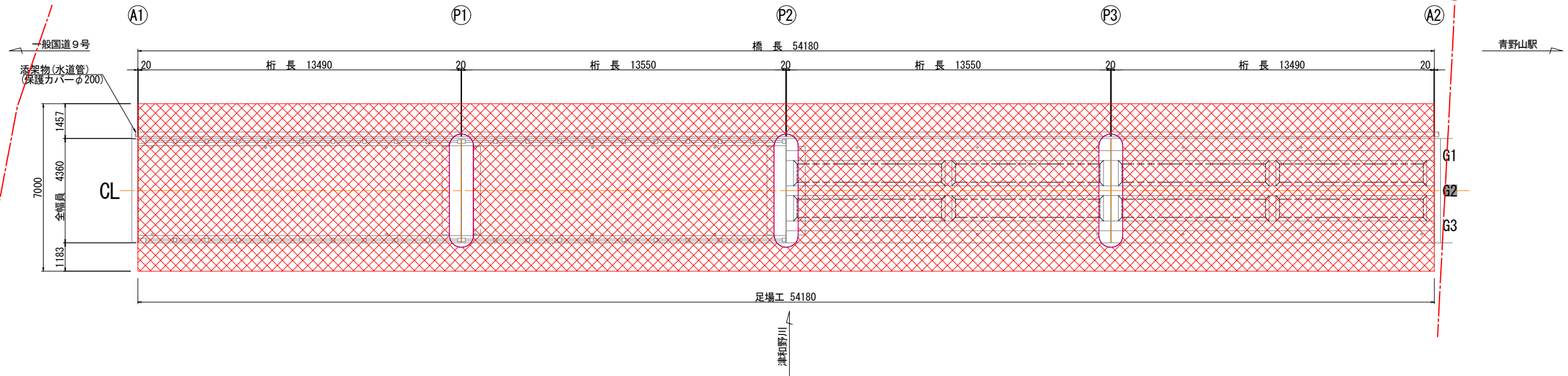
河川区域界
(推定)

直地橋 仮設計画図 (案) (その1)

上部工 施工時
側 面 図
S=1:100

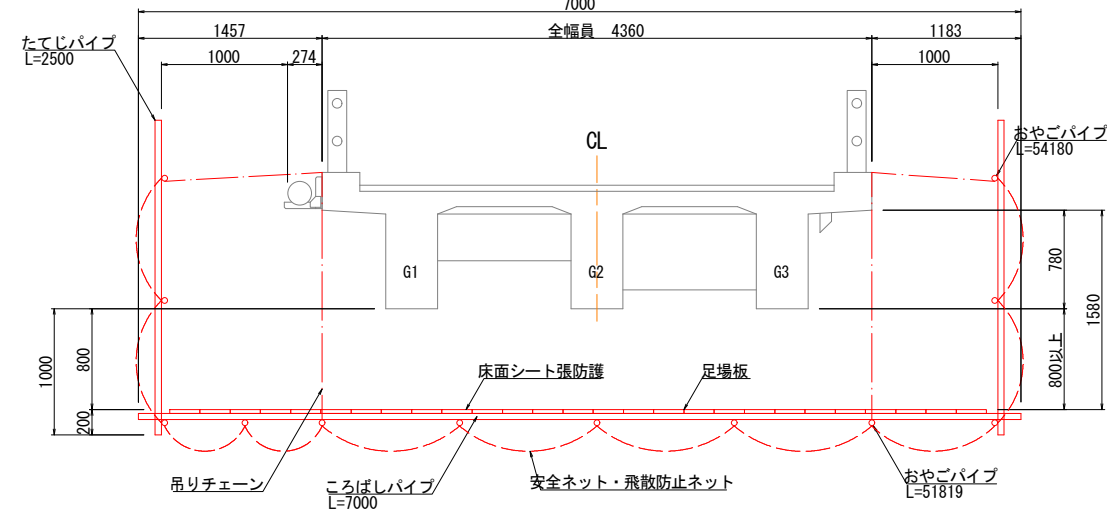


平面図
S=1:100



断面図
S=1:30

端 部 中 間 部



足場工数量表

種 別	箇所名	単位	数量	摘 要
橋梁足場 吊足場 タイプA3 タイプB 朝顔 (両側)	全径間	m2	236.22	54.18×4.36
	合 計	m2	236.22	

占用面積 54.18×7.00=379.3m²

通水断面の検討

過去5カ年間 (非出水期10/21~6/14) の最大日雨量『2024/11/2(120mm/日)』より算定した仮設時必要流量は $Q_1=374.1\text{m}^3/\text{s}$ である。等流計算により流量計算を行った結果、河床から $H=2.943\text{m}$ までの水位となり、吊足場設置時には阻害しない結果となった。よって、吊足場工の設置は、非出水期 (非出水期10/21~6/14) に行う。

※本図面は橋梁台帳等および現地簡易計測から復元したものである。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 仮設計画図 (案) (その1) 縮尺 図示
会社名	会社名及び責任者
測 量	
調 査	
設 計	
26 葉の内 25	

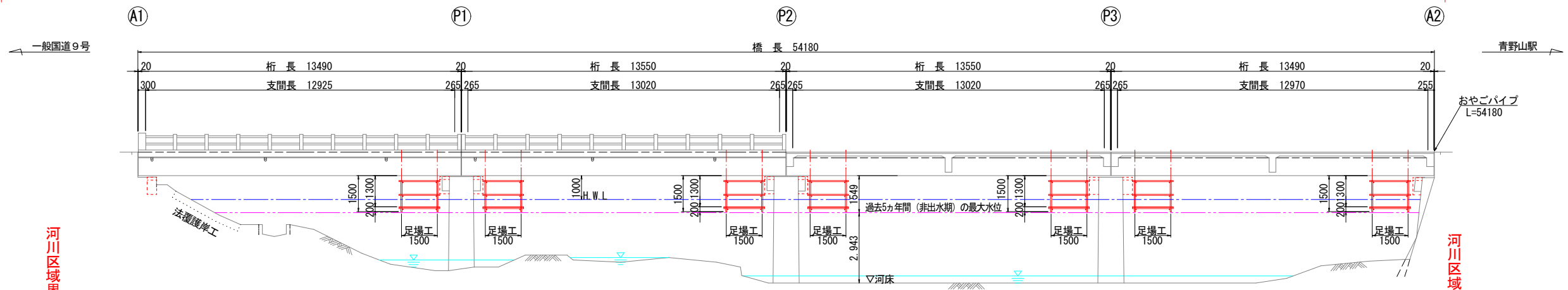
河川区域界
(推定)

河川区域界
(推定)

直地橋 仮設計画図 (案) (その2)

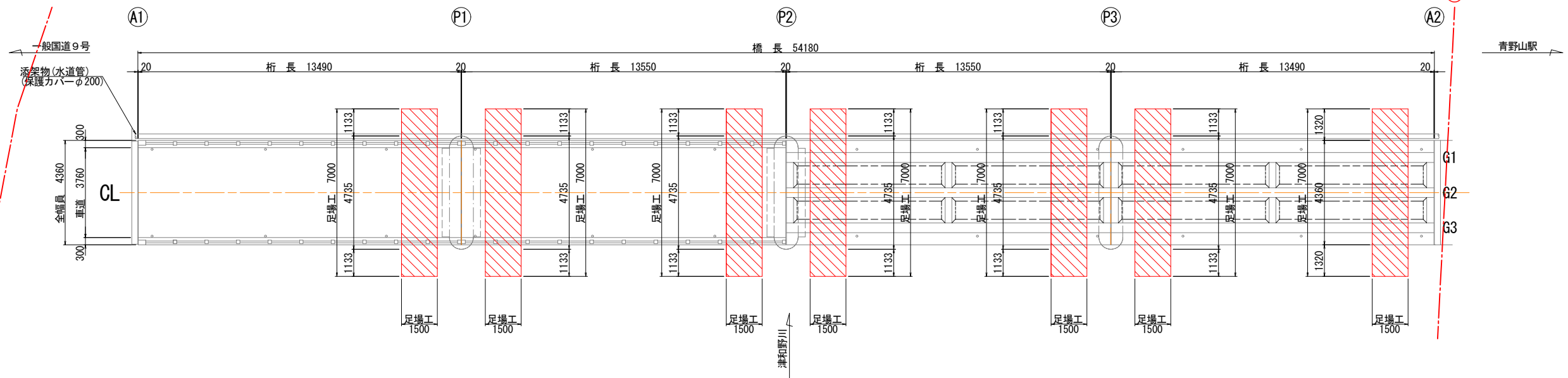
支承取替工等 施工時
側面図

S=1:100



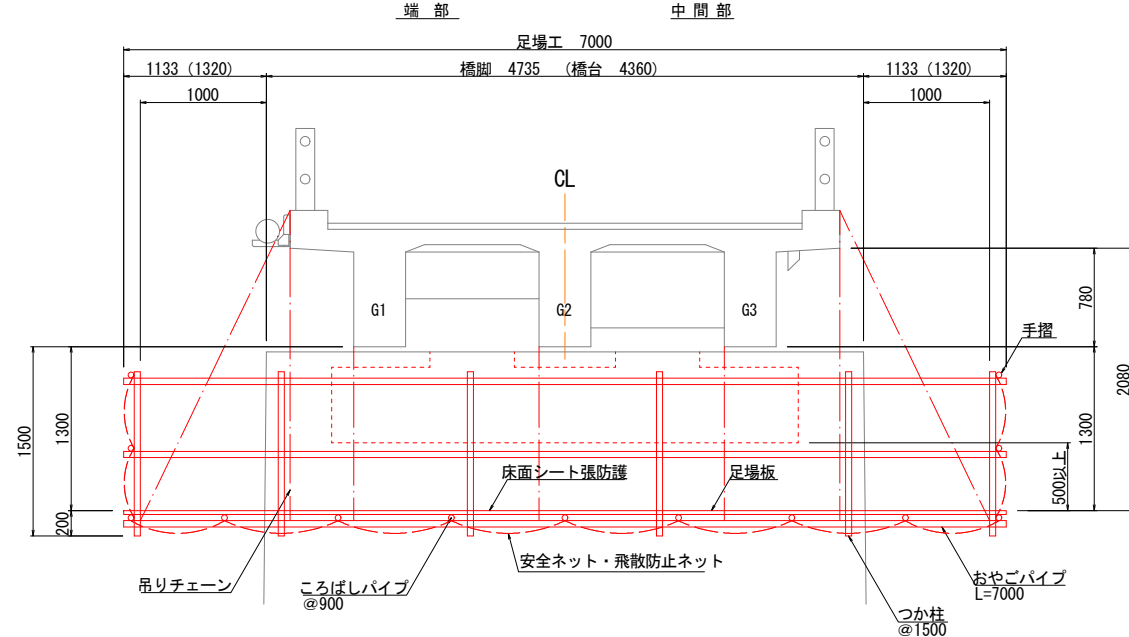
平面図

S=1:100



断面図

S=1:30



足場工数量表

種 別	箇所名	単位	数量	摘 要
橋梁足場 橋脚回り足場 タイプF	橋 台	m2	9.5	(4.360+2) × 1.50 × 2 × 1/2
	橋 脚	m2	60.6	(4.735+2) × 1.50 × 2 × 3
	合 計	m2	70.1	

占用面積 1.50 × 7.00 × 7 = 73.5m²

通水断面の検討

過去5ヵ年間（非出水期10/21～6/14）の最大日雨量『2024/11/2(120mm/日)』より算定した仮設時必要流量は $Q_1=374.1\text{m}^3/\text{s}$ である。
等流計算により流量計算を行った結果、河床から $H=2.943\text{m}$ までの水位となり、橋脚回り足場設置時には阻害しない結果となった。
よって、橋脚回り足場工の設置は、非出水期（非出水期10/21～6/14）に行う。

※本図面は橋梁台帳等および現地簡易計測から復元したものである。

年 度	令和8年度
番 号	災 号
工 事 名	令和8年度 町道直地線直地橋修繕工事
道川港名	町道直地線
施工箇所	鹿足 市 津和野 村 直地 地内
図面名称	直地橋 仮設計画図(案) (その2)
会社名	会社名及び責任者
測 量	
調 査	
設 計	
26 葉の内 26	